

茨城県自然博物館総合調査報告書

－ 2007年 茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向 －

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum

－ Trends of Insects and Other Invertebrates in 2007 －



Bando, Ibaraki, Japan

March 2008

はじめに

茨城県の自然の現状を探る第Ⅱ期の総合調査がスタートした。この総合調査は、自然博物館の開館にあたり、その活動の基本方針に掲げた「地域自然の継続的調査研究」を推進し、動植物の分布状況や保全状況を科学的に調査しその実態を把握すると共に、この調査により得られた情報を活用し地域の自然特性に応じた生物多様性の保全を図るための活動につなげていこうとするものである。

今回発行される総合調査報告書は「茨城県の昆虫およびその他の脊椎動物の動向」についてである。人間活動等により自然の疲弊が進む中、昆虫類もその大きな影響を受けている。巧みに環境に適応し、新たに活動領域を広げるものもあれば、絶滅に危機に瀕している昆虫もあり今後も継続した調査が重要である。

本報告書は総合調査に参画した研究者や団体、或いは個人などの多くの方々の地道な調査研究の成果集である。そのご苦勞に感謝申し上げますと共に、本書が各方面で広く活用されることも願うものである。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

館長 菅 谷 博



ナゴヤサナエ (茨城町親沢鼻 潤沼, 2007. 8. 6, 佐々木泰弘撮影)



イナゴモドキ (北茨城市小川定波, 2007. 8. 16, 井上尚武撮影)



オオツノトンボ（牛久市結束町 牛久自然観察の森, 2007. 7. 15, 榎本友好撮影）



コエゾゼミ（大子町 八溝山山頂, 2007. 8. 5, 佐々木泰弘撮影）



カワラハンミョウ（ひたちなか市 ひたち海浜公園, 2007. 8. 28, 佐々木泰弘撮影）



モンスズメバチの巣を乗っ取るチャイロスズメバチ（常総市大塚戸 山口宅, 2007. 7. 16, 田迎昌人撮影）



ガガンボモドキ（牛久市久野町，2005. 7. 14，榎本友好撮影）



ツマグロキチョウ（桜川市富谷，2006. 10. 28，佐々木泰弘撮影）

目 次

総合調査研究について	1
「茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向」	
調査について	1
2007年茨城県の昆虫類の動向	2
〔各論〕	
昆虫類	
イシノミ目・シミ目	3
カゲロウ目・カワゲラ目	5
トンボ目	7
バッタ目	9
ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目	11
カメムシ目 (陸生異翅半翅類)	13
カメムシ目 (アブラムシ類)	15
カメムシ目 (セミ類)	19
アミメカゲロウ目	21
コウチュウ目	23
コウチュウ目 (水生コウチュウ類)	29
ハチ目	31
シリアゲムシ目	33
ハエ目 (主にハナアブ類)	35
トビケラ目	37
チョウ目 (チョウ類)	41
チョウ目 (ガ類)	45
クモ類	
カニムシ目	49
〔採集報告〕	
取手市などで採集したガ類の記録	51
茨城県の淡水海綿	61

総合調査研究について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館が実施している「総合調査研究」は、茨城県内の動物、植物の分布や生息環境の特性、地質・気象等の地学的特性を把握し、それらの相互関係や変遷のメカニズムを解明するとともに、自然誌資料の収集を図ることを目的とした調査研究活動である。ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、「総合調査研究」を調査研究活動の中心として位置づけ、博物館が開館した1994年から実施している。1994～2005年の12年間をかけた第Ⅰ期総合調査研究では、茨城県全域を4地域に分け第1次から第4次の調査を実施し、県内の動植物と地学的特性のあらましを調査してきた。2006年からはじまった第Ⅱ期総合調査研究では、これまでの調査結果をもとに、茨城の自然の全体像を明らかにするために調査をすすめている。

「茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向」調査について

1. 目的

現在、茨城県では5,500種程の昆虫が記録されている。しかし、調査が進んでない分類群や地域も多く、最近でも県初記録となる種が数多く報告されている。博物館が開館してからの十年余の間に新しく記録された種を見ると、これまでの生息域が北に延びて県内で記録された種や、人為的に外から持ち込まれたと考えられる種がかなりあることに気づく。これら、昆虫相の変化は、私たちには直接感じ取ることができない環境の変化を現していると思われる。小さな昆虫の分布上の変化を明らかにすることによって、環境変化を知ろうえでの重要な指標を得られるであろう。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、刻々と変化する昆虫相の変化を知るために、その年の昆虫類の動向についてまとめることにした。さまざまな昆虫の発生状況や調査状況を報告することで、その1年の特徴を押しえられると考えたからである。同時に、今後の調査研究の便宜を図るために、その年に刊行された昆虫類に関する文献の一覧を付した。また、茨城県の昆虫相を解明するために、採集報告を記録していくことにする。今回の報告では、「取手市のガ類」について記した。茨城県の昆虫類の動向を積み重ねることで、10年後を目安に、茨城県の昆虫総目録を作成したいと考えている。

2. 委託先

茨城陸生無脊椎動物研究会

茨城陸生無脊椎動物研究会は、茨城県の昆虫類の他に、陸生無脊椎動物全般のファウナを調べるために組織された団体である。山根爽一(茨城大学教育学部)を代表に、茨城県を代表する自然の研究者20名ほどのメンバーで構成されている。

(山根爽一・久松正樹)

2007年茨城県の昆虫類の動向

廣瀬 誠

2007年は、本州を北上する南方系のチョウ類ナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、クロノマチョウ、ムラサキツバメなどの分布が注目された。茨城県南部ではセミ類クマゼミの発生の確認があったが、北限地として国指定天然記念物に指定されているヒメハルゼミの笠間市での生息状況は、例年と大差はなかった。セスジササキリモドキ、モリチャバネゴキブリ、オオホシカメムシの生息確認なども温暖化の余波の一例とみなせるかもしれない。近年、河川の源流域の乾燥化が目立ち、水生昆虫全般、なかでもトンボ目の種数や生息数減少は、顕著に進んでいる。ここ数年の昆虫相の変化を茨城県全体からみると、身近なチョウ類ばかりか、コウチュウ、セミ、トンボ、バッタなどが市街地周辺から姿を消しつつある。しかし、まだそれらの相当数は平地林や、阿武隈山地、筑波山から北に連なる八溝山地の所々には遺在的に生息している。

茨城県の昆虫を総括した文献「茨城県の昆虫」(1993年、水戸昆虫研究会編、水戸市立博物館)では、コウチュウ目で96科1,932種が記録されたが、2007年末では115科2,718種と増加し、3,000種達成も間もない状況である。その一方で、調査歴の長いセミ類、トンボ目などでは種数の増加はなく、生息地に変動を見せているだけである。知見の増加が目立つ水生昆虫においては、カゲロウ目、カワゲラ目の種が再検討された。トビケラ目においても従来の記録が、成虫・幼虫ともに再検討され、利根川水系ばかりか各地の河川での生息の詳細が明らかにされつつある。チョウ類の調査結果では、豊富な資料が集積され、南方系のチョウの北上、希少種の記録、一部のチョウ類の分布拡大などが実証された。しかし、井上大成氏の労作、「21世紀最初の5年間に茨城県内で確認したチョウ類成虫の記録」(るりぼし、35号、水戸昆虫研究会)のように総括的な資料がないのは惜しい。ガ類については、本報告で取手市のガ類について報告したが、今後、一層の精査を期待している。ハチ目ハナバチ類の分布調査は着実に進行し、海岸砂丘部や霞ヶ浦沿岸の台地とその周縁部などでも、生態的に特異なハチ相の発見と食草との関連でも新知見を報じている。形態的にも生態的にも多様性に富むハエ目については、アブ類など一部の調査は集中的に充実を見せているが、既存の資料を含めての再検討の要があり、この分類群の究明は今後の最重要調査課題となろう。調査着手段階のアミメカゲロウ目、シリアゲムシ目などもあり、さらなる調査が求められている。昆虫全般の調査究明の水準には、分類群によって高低差があることは否めない。

本報告で記した土壌動物カニムシ類の生息地の分布状態から示唆された県域の地史的な動物相成立のモデル化は、検証に値する内容であって、今後の各分類群からの資料の提供が期待される。また、淡水海綿を整理したような各分類群に関する文献資料の総覧が可能な一括表の用意も望まれてならない。

過去、茨城県の昆虫相の調査は、少数の専門家と多くの趣味的愛好者の協働で成果を挙げてきた。近年は他県在住の専門家などが各領域にまで研究を深化させ、昆虫相が明確になりつつある。そうした作業の結果として、専攻の各分野で指摘されているように、20世紀の研究報告の見直しや未踏査地への調査回数も増してきた。また、加えて近代的な調査法の進展もあって、部分的には優れた成果を挙げています。各種情報の公開、そして交換によって調査内容の質的な充実を求め合うと同時に、問題点の発見と追求にも共通の眼を持ちたいものである。

イシノミ目・シミ目

榎本 友好

2007年のイシノミ目昆虫の動向

茨城県のイシノミ目昆虫の報告については、町田・芳賀（1993）以外にはまとまった報告がない。筆者は2007年に茨城県南部で、イシノミ目昆虫の採集を試みたので報告する。調査は、筑波山周辺と牛久市周辺の平地林で実施した。

筑波山周辺では、筑波山（つくば市、2007年7月14日）と、中央青年の家周辺（土浦市から、かすみがうら市、2007年8月4日）で実施し、ヤマトイシノミ *Pedetontus nipponicus* (Silvestri) を確認した。落葉による腐植質の発達した雑木林に生息が確認され、落葉上や広葉樹の樹皮上に多数が見られた。本種の生息数は林内の乾燥状態や林床の落葉の状況による影響が大きく、隣接する林分でも、日当たりが良く乾燥が進んだ場所や、キャンプ場等の落ち葉を取り除いてある場所には個体数が少なかった。

平地林では、県南平野部の牛久市、龍ヶ崎市、稲敷市におけるスギ二次林、常緑広葉樹及び落葉広葉樹の混交林内での調査を実施した。社寺林やスギの壮齢林など、長い期間にわたって環境変化の少ない場所を選んで調査したがイシノミは確認できなかった。牛久市周辺では、かつて目撃情報があり、今後さらに調査をすすめたい。

引用文献

町田龍一郎・芳賀和男. 1993. イシノミ目. 水戸昆虫研究会（編）. 茨城県の昆虫. pp. 15, 水戸市立博物館.

2007年のシミ目昆虫の動向

シミ目の昆虫は、多くの目撃例があるとは思われるが、報告される事例は少なく、成田（1993）以外にはまとまった報告がない。筆者は、2007年7月に牛久市にて小学生が採集したシミを見る機会を得た。鱗粉が取れ触角及び尾毛も不完全で標本を得ることはできなかったが、触角と尾毛の長さ、剛毛の形態などからヤマトシミ *Ctenolepisma villosa* Escherich と確認した。シミ目の生息場所は、そのほとんどが家屋内であるため、人為的な影響を受けやすく、必ずしも自然分布とはいえない。しかしながら、県内における確実な情報が少なく、また、標本も未整備なため、今後も情報の収集と標本の整備が必要である。

引用文献

成田行弘. 1993. イシノミ目. 水戸昆虫研究会（編）. 茨城県の昆虫. pp. 16, 水戸市立博物館.
東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

カゲロウ目・カワゲラ目

岸本 亨

2007 年までのカゲロウ目昆虫の調査状況

茨城県におけるカゲロウ目に関する報告は、栗田 (1993a) の報告があるが、調査があまり進んでいない状況にあるといえる。

筆者は 1995 年頃から茨城県の水生昆虫類の調査を開始し、主に県北地域と那珂川、桜川水系などで調査を行ってきた。その中で 2002 年から 2003 年にかけてつくば市神郡の細草川で水生昆虫調査を行った結果、わずかに 11 種を記録しただけであるが簡単な報告を行った (岸本, 2004)。特筆するような種は出現しなかった。

東城幸司・勝間信之 (私信) によると、常総市、つくば市、土浦市でアカツキシロカゲロウ *Ephoron eophilum* Ishiwata が確認されている。本種は、現在の所利根川水系のみで確認されており、環境省のレッドデータブックの情報不足種に指定されている。今後、詳細な調査が望まれる。

引用文献

- 岸本 亨. 2004. 筑波山麓細草川における水生昆虫調査報告書. NPO 法人つくば環境フォーラム (編). 筑波ふれあいの里運営モデル事業筑波山麓自然学校実施報告書. pp. 56-67.
- 栗田初美. 1993a. カゲロウ目. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 17-23, 水戸市立博物館.

2007 年のカゲロウ目昆虫の文献

2007 年に印刷された前述以外のカゲロウ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

2007 年までのカワゲラ目昆虫の調査状況

茨城県でカワゲラ目昆虫が初めてまとめられた文献は栗田 (1993b) と思われる。岸本 (1997) は、栗田 (1993b) によるカワゲラ目のリストと岸本が県内 11 箇所から採集した標本から、茨城県のカワゲラ相を 9 科 41 種に整理した。41 種のうち 20 種については岸本が成虫で同定したものである。しかし、その後、分類体系が変わったことや、栗田 (1993b) によって記録された 39 種はすべて幼虫による同定であることから再検討する必要がある。2007 年には吉成 (2007) が「茨城県のカワゲラ相 (第 1 報)」として 9 科 20 属 41 種を報告した。岸本 (1997) の報告の中で、成虫をもとにして同定を行った種と、吉成 (2007) の記録をあわせたものを現在の茨城県のカワゲラ相とすると、9 科 47 種となる。

茨城県ではカワゲラ目の調査はまだ不十分であり、今後は特に成虫調査を詳細に行うことが必要である。オナシカワゲラ科・シタカワゲラ科・ホソカワゲラ科・クロカワゲラ科・ミドリカワゲラ科などの小型の分類群では種数が増えるものと思われる。また、アミメカワゲラ科やカワゲラ科においてもさらに多くの種が確認されると考えられる。

カワゲラ目における特筆すべき種を以下に記す。採集記録が極めて少ないシノビミアミメカワゲラ *Megaperlodes niger* Yokoyama et Isobe が久慈川水系で記録されている (吉成, 2001)。残念ながらその後に本種に関する新しい情報は得られていない。茨城県の県北地域に生息するトワダカワゲラ科のトワダカワゲラ *Scopura longa* Uéno は日本では東北地方全域と茨城県北部、栃木県 (茨城県境付近)、新潟県中・北部及び佐渡島の山地に分布し、茨城県は太平洋側における分布の南限である。県内の分布については根本 (1975)、今井 (1976)、岸本 (1997)、吉成 (2007) らの報告がある。生息状況については明らかではないが、八溝

山や里美では以前に比べ生息数が減っているように思われる。

なお、「茨城における絶滅の恐れのある野生生物〈動物編〉」に記載されたミネトワダカワゲラ *Scopura montana* Maruyama (茨城県生活環境部環境政策課, 2000) については再検討を要す。

引用文献

- 茨城県生活環境部環境政策課. 2000. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈動物編〉茨城県版・レッドデータブック. 195pp., 茨城県生活環境部環境政策課.
- 今井初太郎. 1976. 茨城県のトワダカワゲラー中間的考察一. おけら, 45: 8-15.
- 岸本 亨. 1997. 茨城県の河川における水生昆虫相 (1) カワゲラ目 (予報) 『つくば国際大学研究紀要』, 3: 107-116.
- 岸本 亨. 2004. 筑波山麓細草川における水生昆虫調査報告書. NPO 法人つくば環境フォーラム (編). 筑波ふれあいの里運営モデル事業筑波山麓自然学校実施報告書. pp. 56-67.
- 栗田初美. 1993b. カワゲラ目. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 36-41, 水戸市立博物館.
- 根本邦宏. 1975. 生きている化石 トワダカワゲラ. 茨城生物, 3: 15-25.
- 吉成 暁. 2001. 茨城県のシノビアミメカワゲラ. 兵庫県陸水生物, 53: 97-99.
- 吉成 暁. 2007. 茨城県のカワゲラ相(第1報). るりぼし, (34): 7-14..

トンボ目

渡辺 健

2007年のトンボ目昆虫の動向

カワトンボの種は、近年、DNA解析に基づいた分類の検討がなされてきた。和名の混乱を避けるため、日本蜻蛉学会の標準名検討委員会から、2007年3月にオオカワトンボ（ヒガシカワトンボ）をニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, カワトンボ（ニシカワトンボ）をアサヒナカワトンボ *M. pruinosa* Selys とすることが提唱された。茨城県には、ニホンカワトンボが分布する。

県北山間地域では、温暖化によって積雪が減少し、より一層森林の乾燥化が進んでいると考えられる。森林の乾燥化は山地湿原や河川環境に及ぼす影響が大きい。2007年においても北茨城市関本町の亀谷地湿原および常陸太田市（旧里美村）岡見の湿原においてハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur の生息を確認することはできなかった。

また、常陸太田市（旧里美村）の岡見～里川にかけて調査を行ったところ、源流～中流域に生息する小型サナエトンボの個体数が減少傾向にあることを認めた。なかでもモイワサナエ *Davidius moiwanus moiwanus* (Okumura) やヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus* (Oguma) の個体数減少は著しい。

ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* (Linnaeus) は、ハッチョウトンボと同様に北茨城市関本町の亀谷地および常陸太田市（旧里美村）岡見の山地湿原において、生息確認することはできなかった。しかし、常陸太田市（旧里美村）の里美牧場内において、降雨後、湿地状に湛水した草地上をパトロールする複数の♂個体を観察した。近隣に発生地があるものと思われ、詳細な調査が必要である。

県北山間地域ならびに県央の平地では、水田の耕作放棄地が増加している。初期の休耕田では、植生環境が維持され、オゼイトンボ *Coenagrion terue* (Asahina), モートンイトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris), ハッチョウトンボ、

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys), マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* (Selys), エゾトンボ *Somatochlora viridiaenea* (Selys), サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (Martin) 等多くの種が観察されるが、荒廃した耕作放棄田ではヨシやガマ等の水生多年草やハンノキ等の灌木が生い茂り、観察できるトンボの種も限定される。本年の調査地域では、那珂市古徳、那珂市大内の休耕田では上記の種が確認され、個体数も多かった。今後は増加する耕作放棄田の人為的な管理・維持がトンボを含めた昆虫や動物の種の多様性保全につながると考えられる。

平地や丘陵地のヨシ等が多い古い池沼に生息するコバネアオイトンボ *Lestes japonicus* Selys (絶滅危惧 II 類) は、県内でも生息地が限られているが、那珂市鴻巣では継続的に観察され、個体数も多い。また、同地では美麗種マダラヤンマ *Aeshna mixta soneharai* Latreille も生息しているため、県外からの観察者、採集者の来訪も多い。一方、池沼隣接地には本年度より農産物直売所が開設され、より多くの人々が来訪するようになった。今後、開発による周囲の池沼や雑木林の環境悪化が懸念される。

茨城県潤沼で発見され、汽水域の密生したヨシ原に依存するヒヌマイトトンボ *Mortonagrion Hirosei* Asahina (絶滅危惧 I 類) は、2007年も茨城町および神栖市で継続的に観察されている。本種は、汽水域の密生したヨシ原のみでしか生存できないため、各地の個体群の遺伝的な多様性を残すためにそれぞれの生息地を残すことが極めて重要である。

県南～県西地域では、オオセスジイトンボ *Cercion plagiosum* (Needham) (絶滅危惧 I 類) の減少が懸念される。2007年も常総市において継続的に観察されているものの、1999年頃をピークとして個体数が激減した（田辺 助、私信）。生息地周辺の環境は大きく変化しておらず、個体数減少の理由は判然としないが、トンボ愛好者による採

集圧が原因である可能性も捨てきれない。

オオモノサシトンボ *Copera tokyoensis* Asahina (絶滅危惧 I 類)は、上記オオセスジイトトンボと生息環境を同じにするが、常総市および小美玉市等において継続観察されている。本種についても今後注意深く継続観察する必要がある。

筆者により 2007 年に確認できなかった種は、ベニイトトンボ *Ceriagrion nipponicum* Asahina, ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum* Oguma, キトンボ *Sympetrum croceolum* Selys, ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata* Oguma 等があり、次年度はさらに詳細な調査を行いたい。

2007 年のトンボ目昆虫の文献

2007 年に印刷されたトンボ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

廣瀬 (2007a)は、平成 15~17 年の 3 年間、八溝山とその周辺のトンボ類昆虫の生息・分布調査を行い、10 科 43 種のトンボを記録するとともに、八溝山周辺においても小型サナエトンボ類の個体数が減少していることを報じている。

一家 (2007a) は、鬼怒川、小貝川流域における幼虫調査ではホンサナエ *Gomphus postocularis* Selys, ナゴヤサナエ *Stylurus nagoyanus* (Asahina), アオサナエ *Nihonogomphus viridis* Oguma, キイロサナエ *Asiagomphus pryeri* (Selys), ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys) 等のサナエトンボ類とともにキイロヤマトンボ *Macromia daimoji* (Selys)(絶滅危惧 II 類)の生息確認を報告した。

一家 (2007b) では、筑波山のモイワサナエは特異的な分布として注目されたが、誤認であったことが明らかとなり、記録が削除された。

廣瀬 誠. 2007a. 茨城県北西域の昆虫類 八溝山のトンボ類. ミュージアムパーク茨城県自然博物館 (編). 茨城県自然博物館第 4 次総合調査報告書. pp 295-310. ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

廣瀬 誠. 2007b. 茨城のトンボ詩 雑考-小さなイ

トトンボ類が喘ぐ-. 茨城生物, (27): 65-76.

廣瀬 誠. 2007c. 野原先生・神の池・蜻蛉史. 鹿行の自然, (11): 8-10.

廣瀬 誠. 2007d. 北蜻南蛉行 (11) 御前山山麓ムカシヤンマ. 緑の手帖, (32): 57-60. 緑の手帖社 (小美玉市).

廣瀬 誠. 2007e. 朝比奈先生と茨城のトンボ. TOMBO, 50: 19-22.

廣瀬 誠. 2007f. 茨城県中央部におけるホソミオツネントンボの越冬生態. 日本蜻蛉学会 (編). 2007 年度日本蜻蛉学会大会研究発表要旨集. pp. 9, 日本蜻蛉学会.

一家伴安. 2007a. 鬼怒川と小貝川のサナエトンボ. るりぼし, 34: 36-38.

一家伴安. 2007b. 筑波山のモイワサナエの記録削除. るりぼし, 34: 47.

田中幸一・山中武彦・岩崎亘典・David S. Sprague・中谷 至伸. 2007a. トンボの生息環境を守るためのため池のあり方. 農環研ニュース, (76): 5-6.

田中幸一・山中武彦・岩崎亘典・David S. Sprague・中谷 至伸. 2007b. トンボの生息環境としてのため池の特徴. 研究成果情報. (23): 26-27.

東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

山中武彦・田中幸一・浜崎健児・岩崎亘典・David, S. S.・中谷至伸. 2007. 広域調査によるトンボが好む生息環境の評価と生息地の地理的制約の解明. 日本蜻蛉学会 (編). 2007 年度日本蜻蛉学会大会研究発表要旨集. pp. 15, 日本蜻蛉学会.

バッタ目

井上 尚武

2007年の動向のバッタ目昆虫の動向

1. 2007年に新たに茨城県から記録された種

バッタ科 Acrididae

イナゴモドキ

Mecostethus parapleurus Hagenbach

3♂, 北茨城市小川定波, 16 VIII 2007

本種は北海道, 本州, 四国, 対馬に分布するが, 西日本では産地が限定される。山地の湿地, 草原に生息し, 成虫は年 1 回, 6~8 月に出現する。

北茨城市の生息地は休耕田の牧草地で個体数は少なかった。県内では今のところ唯一の産地である。なお, 同じ日に北茨城市に隣接する福島県いわき市田人からも採集された。

2. 新たな産地が記録された注目すべき種

キリギリス科 Tettigoniidae

ヒガシキリギリス *Gampsocleis mikado* Burr

本種は昔から有名な鳴く虫だが, 近年非常に少なくなり, 特に本県平野部では, ほとんど鳴き声を聴かない。県北部の山間地帯や海岸付近にはまだ比較的の生息地が見られるが農耕地付近, 特に水田周辺には少ないようである。下記の記録の他に, 疋田直之 (私信) によると, 水戸市内など複数の場所で鳴き声を聴いているとのことである。県北部の常陸太田市下高倉町では数カ所で毎年鳴き声を聴いている。

鳴き声 (1♂), 大子町池田, 4 VIII 2007

鳴き声 (1♂), 土浦市沖宿, 9 VIII 2007

鳴き声 (1♂), 鹿嶋市青塚, 29 VII 2007

鳴き声 (1♂), 鹿嶋市大小志崎, 29 VII 2007

鳴き声 (2♂), 潮来市永山, 29 VII 2007

ハタケノウマオイ

Hexacentrus japonicus Karny

2007年9月9日に神栖市内を調査し, 鳴き声によってかなりの個体数が生息していることを確認

した。県南部を中心に生息が知られていたが, 今まで生息が確認されなかった鹿行地方で確認されたことになる。

標 (2007) は, 関東地方のウマオイ属の分布を調査し, 茨城県では南部以南に生息するとしたが, 太平洋側の北限としては既に水戸市から記録がある。

ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

リュウキュウチビスズ (ヤマトチビスズ)

Pteronemobius sulfurariae Chopard

本種は沖縄本島や奄美大島と, はるか飛び離れて本州の茨城県霞ヶ浦, 千葉県木更津市から見つかった。前者をリュウキュウチビスズ, 後者をヤマトチビスズと呼ぶこともあるが, 両者の交雑によって同種であることがわかった。ただし休眠の生態に若干違いがあり, 亜種程度の差があると考えられる。

本県からは, 今まで稲敷市浮島などの霞ヶ浦南岸のみ知られていたが, 2007年8月から9月の調査で, 新たに土浦市田村, 潮来市永山 (以上霞ヶ浦畔), 鉾田市安塚, 行方市矢幡 (以上北浦畔) から見つかった。いずれの生息地も個体数は少ない。なお, 土浦市の生息地は, 国土交通省霞ヶ浦河川事務所 (2007) に記録されている。鉾田市などの北浦からの記録は初めてで, 今回の記録により鉾田市が新たな北限となった。いわゆる水郷地帯には広く生息している可能性がある。

バッタ科 Acrididae

ヤマトマダラバッタ

Epacromius japonicus (Shiraki)

2007年に神栖市波崎柳川・日川浜から新たに生息地が見つかった。近年記録された産地としては日立市十王町伊師浜, 同会瀬海岸がある。

3. その他注目すべき種

カヤキリ

Pseudorhynchus japonicus Shiraki

茨城県北茨城市が北限とされているが、筆者は2007年8月18日に岩手県で本種らしい鳴き声を1♂聴いているので、実際はさらに北上している可能性がある。

シブイロカヤキリ

Xesthophrys javanicus Redtenbacher

茨城県北部において、個体数にやや変動があるようだが継続して発生しているので定着していると見てよいであろう。

クツワムシ *Mecopoda niponensis* (de Haan)

近年非常に減少している種であるが、常陸太田市東染で鳴き声を確認している。また今年度は稲敷市浮島でも生息を確認した。那珂市内にも生息の情報がある。

セスジササキリモドキ

Xiphidiopsis subpunctata (Motschoulsky)

本種は1980年代前半に現在の稲敷市江戸崎で筆者が確認していたが、標本が残っていなかった。ところが2005年になって、そこから遠く離れた本県北部である常陸太田市染和田町で採集した。また2007年に新たに同市山田町、大門町でも採集した。これらの地域は阿武隈山地に属する。従来の確実な記録は東京以南とされていたものであるが、3年連続、多数の個体が採集されているので確実に生息することがわかった。本種は生息地

では個体数が多いとされているが、今まで茨城県から記録がほとんどなかった理由は不明である。本種はよく飛翔し、場所によっては灯火にも多数飛来するので移動力がある。常陸太田市の発見場所は、温暖化による影響で北へ移動した可能性も捨て切れないが、それ以前の比較すべきデータがまったくないので、現時点では何とも言えない。

引用文献

- 国土交通省霞ヶ浦河川事務所. 2007. 霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業実施計画書【B区間】(素案), 36pp. 国土交通省.
- 標 輝人. 2007. 関東地域におけるウマオイ属・近縁種の知られざる生態変化. 第37回関東理科教育研究発表会茨城大会運営委員会(編). 第37回関東理科教育研究発表会茨城大会要項・研究発表資料. pp. 74-75.

2007年のバッタ目昆虫の文献

- 2007年に印刷された前述以外のバッタ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。
- 安嶋 隆. 2007. (3) 外来生物班「里山は動いている」, 茨城県高等学校教育研究会生物部會誌, (20): 20-28.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌, 350 pp., 東海村教育委員会.

ゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目

井上 尚武

2007年のゴキブリ目・カマキリ目・ナナフシ目 昆虫の動向

2006年以前の記録になるが茨城県全体のゴキブリ類、カマキリ類、ナナフシ類についてまとめた報告としては、井上(1993)が初めてであろう。この仲間は以前直翅系昆虫と呼ばれたこともあるので、バッタ目を担当した筆者により文献からの引用も含めてゴキブリ目3科5種、カマキリ目1科5種、ナナフシ目1科3種が記録されている。その後まとまった報告はない。

2007年は、東海村の自然調査会によって「東海村の自然誌」が発行された(東海村の自然調査会, 2007)。これは1994年に発行された「東海村の自然」(東海村の自然調査会, 1994)に続いて、その後の環境の変化を中心に、現時点での村内の自然環境を調査したものであるが、この中にゴキブリ目3種、カマキリ目5種、ナナフシ目1種が記録されている。

1. ゴキブリ目

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica* Asahina は、文献上に記録があった(藤村ほか, 1991; 勝間, 2003)が、茨城県北部からの採集記録がなかったため、筆者は「東海村の自然」に記された記録(東海村の自然調査会, 1994)を疑問種として扱っていた。しかし、筆者自身が2007年6月14日に東海村村松でモリチャバネゴキブリ1ex.を採集し、記録が再確認された。従来の分布は房総半島の南部や東京以西であったが、地球温暖化の影響か、近年千葉県北部や茨城県南部および鹿行地区、栃木県北部、福島県いわき市から採集記録が出ている。茨城県においても今後の動向に注目する必要がある。

2. カマキリ目

カマキリ目では、ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus) が、かつては旧水戸射爆場跡地に多かったが、ここ15年程の開発によって激減

している。本種は他の地域では非常に少なく、旧水戸射爆場跡地以外では近年ほとんど目撃されていない希少種である。榎本友好(私信)によると、県南部でも目撃されたという。ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Serville) は水戸以北では東海村あたりが北限と考えられるが、佐々木泰弘(私信)によると常陸太田市でも見つかっているという。これは北限に近い記録と思われる。

3. ナナフシ目

ナナフシ目では、柳田(2007)により小美玉市寺崎(2007年)と千葉県流山市十太夫(2006年)からナナフシモドキの雄が採集されたのは注目に値する。本種は雌のみによる単為生殖を行うため雄が極めて希で、国内から数例しか採集例がなかったものである。またトゲナナフシ *Neohirasea japonica* (de Haan) が福島県いわき市のような本来の産地から飛び離れたところで発見された例があるので(三田村ほか, 2006)、本県においても注目する必要がある。

引用文献

- 藤村俊彦・津谷武樹・於保信彦. 1991. 日本植物防疫協会研究所(茨城県牛久市)産昆虫目録. 日植防研報, 5: 56-99.
- 井上尚武. 1993. ゴキブリ目, カマキリ目, バッタ目, ナナフシ目. 水戸昆虫研究会(編). 茨城県の昆虫. pp. 42, pp. 43, pp. 45-52, pp. 53. 水戸市立博物館.
- 勝間信之. 2003. 茨城県麻生町でモリチャバネゴキブリを採集. りりぼし, (30): 71.
- 三田村敏正・井上尚武・田村克徳. 2006. 福島県のナナフシ目 PHASMIDA. ふくしまの虫, (25): 15-19.
- 東海村の自然調査会. 1994. 東海村の自然. 337pp., 東海村教育委員会.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌.

350pp., 東海村教育委員会.

柳田紀行. 2007. 茨城県と千葉県におけるナナフシ
モドキ♂の採集記録. りりぼし, (34): 35.

カメムシ目(陸生異翅半翅類)

成田 行弘

2007年のカメムシ目昆虫の動向

2007年の調査・観察の結果や気付いたことについて記録しておきたい。

アカアシカスミカメ *Onomaus lautus* (Uhler) は、赤と青のコントラストの美しいカスミカメシ科の一種だが、茨城県北山間地域の林縁部のタマアジサイ葉上などに、例年になく記録的に多く群れる姿が見られた。この傾向は八溝山塊においても同じで、例年は稀にしか観察できなかった本種が、比較的普通に見られる状況であった。カスミカメシ類全体について総合的な見解があるわけではないが、これら地域ではメンガタカスミカメ *Eurystylus coelestialium* (Kirkaldy) など、同じような状況であった。

近年、水戸市の市街地や周辺近郊において、最も日常的普通に見られるカメムシ類であるヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* (Signoret) は、ここ数年の発生量には明らかに及ばず、轢死した個体や木のうろで群れる姿を見る機会は減少したように感じられた。本種が茨城県に定着したと考えることに異論はないが、今後の分布状況の変化などに注目する必要があるように思う。

ヒラタヒョウタンナガカメムシ *Pachybrachius luridus* (Hahn) やキベリヒョウタンナガカメムシ *P. lateralis* (Scott) は、茨城県下では6~9月に灯火や灯火採集に、時に大群で姿を見せる。県下を広く調査したわけではないが、水戸市近郊では地域によっては著しく少なかった。一方の種ではなく、両種が少なかったのも意外である。因みに両種の食草は、ともにイネ科植物である。

2005年、本県からはじめて記録されたオオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister) は、記録地の水戸市内原周辺で調査を試みたが、追加記録を得ることはできなかった。温暖化傾向が続く現在、記録としても貴重なものになりうると思う。大型で目立つ種でもあるので、周囲に注意を促し

て、その後の発生状況や本県での分布の解明を行う必要がある。

アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* (Westwood) は、茨城県のレッドデータブックで希少種に指定されている(茨城県生活環境部環境政策課, 2000)。県北山間地域において、かつては普通に姿が見られたが、近年、発見するのが難しくなってきた。一方、2005年にひたちなか市での発見されてから、平野部でも散見されている。本県の場合、山間部から平野部に分布を広げたというより、セリ科の植物の生育地に沿って分布が広がっているように思える。久松正樹(私信)では、桜川市の桜川堤防でも確認している。本種は特徴ある目立つ種であるので、市民から広く情報を収集し分布拡大の様子を調査したい。

イシハラカメムシ *Brachynema ishiharai* Linnavuori は、茨城県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている(茨城県生活環境部環境政策課, 2000)。県内では御前山のみで確認されている。年によって発生量に差があるものの、2007年も食草でもあるミツバウツギの花でのスウィーピングで確認できた。発生地に隣接してダムが建設されたことから、水辺の樹木であるミツバウツギの枯死を招くことがないように見守りたい。

引用文献

茨城県生活環境部環境政策課. 2000. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物(動物編)茨城県版-レッドデータブック. 195pp., 茨城県生活環境部環境政策課.

2007年のカメムシ目昆虫の文献

2007年に印刷されたカメムシ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

茨城県立多賀高等学校生物部. 2007. ヨコヅナサ

シガメの研究 (1~2 年次)-分布・生態・集合性
について-. 茨城県立多賀高等学校紀要, (18):
87-105.

井上大成・後藤秀章・牧野俊一・岡部貴美子・大
河内勇・濱口京子・末吉昌宏・加賀谷悦子.
2007. 茨城県北東部の森林においてマレーズト
ラップで採集されたセミ類. 森林総合研究所
研究報告. 6(405): 249-252.

竹内博昭. 2007. クモヘリカメムシの発生動態な
らびに斑点米被害予測に関する研究 中央
農業研究センター研究報告, (9): 17-74.

東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌.
350pp., 東海村教育委員会.

カメムシ目 (アブラムシ類)

松本 嘉幸

2007 年までのアブラムシ類の動向

成田 (1993) によると、茨城県産のアブラムシ類の報告は海老根・岸 (1974) と藤村ほか (1991) をみるにすぎない。

本報告では筆者が 1985~2007 年に採集した茨城県産のアブラムシから、プレパラート標本にし、同定が完了した 26 種を報告する。リストでは、アブラムシを伴った寄主植物を明記した。採集データは採集地、採集年月日、アブラムシが寄生していた植物の種および寄生していた部位の順に示した。この中でカキドウシヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum glechomae* Takahashi とササガヤコナフキツノアブラムシ *Ceratovacuna* sp. B は、関東地方では希な種であると思われる。

千葉県中央博物館の大野啓一博士に寄主植物を同定いただきお礼申し上げます。

アブラムシ亜科 Aphidinae

アブラムシ族 Aphidini

ヨモギクダナシアブラムシ

Cryptosiphum artemisiae Buckton

常陸太田市宮本町, 15.IX.1985, ヨモギ-虫こぶ。

ヒゲナガアブラムシ族 Macrosiphini

カキドウシヒゲナガアブラムシ

Aulacorthum glechomae Takahashi

本種はカキドウシの花が株についている短期間にもみ見られる。茎の先端で新葉が展開したてのほぼ茎に平行の状態の葉裏に 2~3 匹のコロニーで確認できた。匍匐状になったカキドウシからは見られない。体色は淡黄色で光沢を持ち、アリは伴わない。

常陸太田市町屋町造宗, 5.V.2007, カキドウシ-葉裏。

イボタヒゲナガアブラムシ

Aulacorthum ibotum (Essig et Kuwana)

常陸太田市町屋町造宗, 5.V.2007, イボタノキ-葉裏/高萩市中戸川米平, 3.VI.2007, イボタノキ-葉裏。

ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ

Aulacorthum nipponicum (Essig et Kuwana)

東海村須和田, 9.X.2006, ヘクソカズラ-葉裏/日立市東河内玉簾寺, 23.XI.2006, ヘクソカズラ-葉裏/石岡市小幡広根場林道 8.VII.2007, ヘクソカズラ-葉裏/桜川市真壁町椎尾薬王院, 8.VII.2007, ヘクソカズラ-蔓・葉裏。

ゴボウクギケアブラムシ

Capitophorus elaeagni (Del Guercio)

常陸太田市町屋町, 9.X.2006, ノハラタイアザミ-葉裏。

キツリフネコブアブラムシ

Eumyzus gallicola Takahashi

常陸太田市町屋町造宗, 23.XI.2006, ツリフネソウ-葉の虫こぶ/北茨城市関本町小川, 16.VIII.2007, キツリフネ-葉の虫こぶ。

ハウセンカコブアブラムシ

Eumyzus impatiensae (Shinji)

常陸太田市町屋町, 9.X.2006, ツリフネソウ-葉の虫こぶ/北茨城市関本町小川, 16.VIII.2007, ツリフネソウ-葉の虫こぶ。

チシャミドリアブラムシ

Hyperomyzus lactucae (Linnaeus)

美浦村信太, 28.XI.1999, ノゲシ-茎。

キツリフネヒゲナガアブラムシ

Impatiensium balsamines (Kaltenbach)

高萩市大能, 3.VI.2007, キツリフネ-葉裏。

ホウセンカヒゲナガアブラムシ

Impatiens impatiens (Shinji)

高萩市大能, 3.VI.2007, ツリフネソウ-茎/常陸太田市町屋町, 9.X.2006, ツリフネソウ-花梗.

イタドリオマルアブラムシ

Macchiatiella itadori (Shinji)

つくば市高野台農業環境技術研究所周辺, 5.IX.2006, イタドリ-葉裏.

ヨモギオナガヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella grandicauda Tak. et Moritsu

常陸太田市真弓町弁天入口, 23.XI.2006, ヨモギ-葉裏.

ヨモギヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella yomogicola (Matsumura)

高萩市大能, 3.vi.2007, ヨモギ-茎の先端. アリを伴う/ 石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ヨモギ-葉裏.

アオヒメヒゲナガアブラムシ

Macrosiphoniella yomogifoliae (Shinji)

常陸太田市真弓町弁天入口, 23.XI.2006, ヨモギ-葉裏.

ワダンコブアブラムシ

Myzus lactucicola Takahashi

常陸太田市町屋町造宗, 5.V.2007, オニタビラコ-葉裏/高萩市中戸川米平, 3.VI.2007, ヤクシソウ-葉裏/高萩市大能, 3.VI.2007, ヤクシソウ-葉裏/石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ヤクシソウ-葉裏.

ワラビツメナシアブラムシ

Shinjia orientalis (Mordvilko)

北茨城市華川町花園, 10.VI.2007, ワラビ-葉裏.

イバラヒゲナガアブラムシ

Sitobion ibaræ (Matsumura)

北茨城市華川町花園, 10.VI.2007, ノイバラ-茎.

スイカズラヒゲナガアブラムシ

Trichosiphonaphis Ionicerae (Uye)

那珂湊市平磯, 27.VIII.1987, スイカズラ-蔓/つくば市高野台農業環境技術研究所周辺, 5.IX.2006, スイカズラ-蔓/高萩市中戸川米平, 3.VI.2007, スイカズラ-蔓/石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, スイカズラ-蔓.

ヨモギキイロコブアブラムシ

Tuberocephalus artemisiae Shinji

石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ヨモギ-葉裏. .

サクラコブアブラムシ

Tuberocephalus sasakii (Matsumura)

石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ヨモギ-葉裏.

タイワンヒゲナガアブラムシ

Uroleucon formosanum (Takahashi)

美浦村信太, 28.XI.1999, ノゲシ-茎/牛久市結束町, 30.X.2002, 有翅雄と卵生雌を含む/つくば市高野台農業環境技術研究所周辺, 5.IX.2006, ノゲシ-茎.

アザミオオヒゲナガアブラムシ

Uroleucon giganteum (Matsumura)

北茨城市華川町花園, 10.VI.2007, アズマヤマアザミ.

マダラアブラムシ亜科 Drepanosiphinae

マダラアブラムシ族 Phyllaphidini

オニグルミトゲアブラムシ

Dasyaphis rhusae (Shinji)

常陸太田市宮本町, 15.IX.1985, オニグルミ-葉裏.

ヒラタアブラムシ亜科 Hormaphidinae

ツノアブラムシ族 Cerataphidini

ヤブタバココナジラミモドキ

Aleurodaphis blumeae van der Goot

石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ヤブタバコ-茎や葉裏.

ササガヤコナフキツノアブラムシ

Ceratovacuna sp. B

本種は, Takahashi (1958) が記載したアブラムシで, まだ種小名がつけられていない. アシボソに寄生するエゴノネコアシアブラムシに近縁であるが葉の中央に砂糖菓子に着いているような状態で寄生が見られることが特徴である. 今回筑波山の東側で確認できた.

石岡市小幡広根場林道, 8.VII.2007, ササガヤ-葉身.

ワタムシ亜科 Pemphiginae

ワタムシ族 Eriosomatini

ナギナタコウジュワタムシ

Kaltenbachiella elsholtriae (Shinji)

北茨城市関本町小川, 16.VIII.2007, ナギナタコウジュ-葉の虫こぶ.

引用文献

海老根翔六・岸 洋一. 1974. 茨城県における緑化樹の害虫. 森林防疫, (262): 14-18.

藤村俊彦・津谷武樹・於保信彦. 1991. 日本植物防疫協会研究所 (茨城県牛久市) 産昆虫目録. 日植防研報, (5): 56-99.

成田行弘. 1993. カメムシ目. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 63-85, 水戸市立博物館.

Takahashi. 1958. On the aphids of *Ceratovacuna* in Japan. *Kontyu*, 26: 187-190.

カメムシ目(セミ類)

久松 正樹

2007年までのクマゼミの発生状況

茨城県では、偶産と考えられたクマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker) も含めて13種のセミが記録されている(成田, 1993)。近年、クマゼミが茨城県へ定着した可能性が示唆される報告が相次いだので、県内のこれまでのクマゼミの発生状況をここに記しておく。

クマゼミの茨城県における最初の報告は、関(1934)が最初と思われる。これによると、“県南より時々見られるがこれは茨城にて稀に少数発生するが、或いは千葉より飛来したるものか断言できぬ”と記されている。また、福田(1937)は1934年8月28日に江戸崎町で1♂を採集した。このように、茨城県では戦前から1980年代までクマゼミに関するいくつかの報告が残されている(日置, 1973; 廣瀬, 1977a, 1977b; 今井, 1968; 小菅, 1980, 1981; 沼田, 1974; 鈴木, 1947, 1949; 高島, 1936)が、定着が示唆される報告はなかった。クマゼミの記録が増えるのは1995年以降で、鳴き声の報告や成体の採集報告が相次いだ(成田・小林, 1995; 植村, 1997; 清水, 1998; 大久保, 2001; 井上, 2002, 2004; 久松, 1999, 2001, 2003; 加藤, 2004; 久松ほか, 2005)。そして2007年には、取手市藤代700取手市役所藤代庁舎敷地内でクマゼミの脱け殻が、鈴木浩二によって8月4日に1♀、8月14日に1♀が採集された(石塚ほか, 印刷中)。一方、久松ほか(2005)の報告した牛久市柏田での採集および確認記録は、同町内に住む男性がクマゼミを放したものであることがわかった。頻繁に確認されるようになったクマゼミの記録が、県内でどのように推移するかを継続的に調査していきたい。

引用文献

- 福田敏夫. 1937. 茨城のクマゼミ. 昆虫界, 5(35): 30-33.
- 日置正義. 1973. 茨城のセミ. るりぼし, (1): 12.
- 廣瀬 誠. 1977a. 茨城のヒメハルゼミとクマゼミの分布. 瑠璃星, 10: 71.
- 廣瀬 誠. 1977b. クマゼミは茨城のセミか. 瑠璃星, 10: 72-76.
- 久松正樹. 1999. 茨城県におけるクマゼミ (*Cryptotympana facialis*) の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (2): 37-38.
- 久松正樹. 2001. クマゼミの記録. おとしぶみ, (21): 114.
- 久松正樹. 2003. 茨城県における2002年夏のクマゼミ (*Cryptotympana facialis*) (Hemiptera, Cicadidae) の鳴き声の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (6): 33-34.
- 久松正樹・高野 勉・井上剛夫・井上大成. 2005. 茨城県における2004年夏のクマゼミ (カメムシ目: セミ科) の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (8): 47-49.
- 今井初太郎. 1968. クマゼミ鳴く. おけら, (35):
- 井上大成. 2002. 茨城県南部におけるクマゼミの鳴き声の確認記録. るりぼし, (27): 67-68.
- 井上大成. 2004. 北茨城市におけるクマゼミの鳴き声の記録. るりぼし, (31): 76.
- 石塚武彦・鈴木浩二・久松正樹(印刷中) 茨城県取手市におけるクマゼミ *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) の脱け殻の採集記録. 茨城県自然博物館研究報告.
- 加藤剛広. 2004. ひたちなか市でクマゼミの鳴き声を聞く. るりぼし, (31): 76.
- 小菅次男. 1980. 茨城県のセミ類の分布について. おけら, (50): 50-64.
- 小菅次男. 1981. 茨城県産セミ類の分布. 茨城県高等学校教育研究会生物部(編). 茨城の生物第2集. pp. 239-252. 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 成田行弘. 1993. カメムシ目. 水戸昆虫研究会(編). 茨城県の昆虫. pp. 63-85. 水戸市立博物館.

- 成田行弘・小林利明. 1995. 水戸市のクマゼミの記録. るりぼし, (19): 46-47.
- 沼田 稔. 1974. 茨城のセミ. 瑠璃星, (3-4), 20-22.
- 大久保誠. 2001. 守谷町でクマゼミを目撃. おとしぶみ, (21): 115.
- 関 行孝. 1934. 分布から見た茨城県の蟬. 茨城博物同好会会誌, (2): 11-23.
- 清水富夫. 1998. 茨城県日立市でクマゼミの鳴き声を聞く. るりぼし, (22): 31.
- 鈴木成美. 1947. 水海道を中心とする常総虫ごよみ. 昆虫科学, (24): 11-114.
- 鈴木成美. 1949. 水海道産蟬類目録. 虫の国, 4(9): 7-8.
- 高島春雄. 1936. 季節の虫籠(その三). 昆虫界, 4(33): 797-800.
- 植村好延. 1997. つくば市のクマゼミの記録. おとしぶみ, (17): 41.

2007年のセミ科昆虫の文献

2007年に印刷された前述以外のセミ科昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

アミメカゲロウ目

榎本 友好

2007年のアミメカゲロウ目の昆虫の動向

アミメカゲロウ目においては、久保田 (1993) により 7 科 19 種が、榎本 (1997) により 6 科 12 種が、そして守谷町自然調査会 (2000) により 5 科 7 種が報告されている。また、各自治体にて作成した自然誌の中に、ヘビトンボ科、ウスバカゲロウ科などの記録が散見されるが、茨城県における調査はほとんど進んでいないのが現状である。

茨城県では、センブリ科、ケカゲロウ科、クシヒゲカゲロウ科に関しては未確認である。センブリ科に関しては、今後、水生昆虫が豊富なため池などを丹念に調べることで発見される可能性が高く、クシヒゲカゲロウ科についても、県北部の山地における調査にて発見される可能性が高い。

茨城県で記録があるラクダムシ *Inocellia japonica* Okamoto (ラクダムシ科) やキバネツノトンボ *Ascalaphus ramburi* Maclachlan (ツノトンボ科) は、神奈川県や埼玉県ではレッドデータ種として指定されるなど、生息環境の変化により近年の記録がほとんどなく絶滅が危惧されている。どちらも特徴的な種であるため、県内での生息に関する新たな知見が寄せられることを期待したい。

2007 年は、ツノトンボ科の昆虫について若干の調査が行えたので、以下に報告する。ツノトンボ科の成虫の主な生息地であるススキ草原は、かつては里山周辺の茅場として維持管理されてきたが、かやぶき屋根の衰退とともに、40 年ほど前から管理されなくなり衰退した。その後、県南地域では大規模な造成や土採り跡地に二次的にススキ草原が発達し、ツノトンボもそのような場所で偶然観察する機会が多くなっている。しかしながら、牛久市周辺では、主な生息地であるススキ原において、ツル植物の繁茂やセイタカアワダチソウの侵入などの植生遷移の進行で生息環境が減少傾向にある。主な観察記録は次の通りである。

オオツノトンボ

Protidricerus japonicas (Maclachlan)

2007 年 7 月 15 日、牛久市結束町 (牛久自然観察の森)、目撃

ツノトンボ *Hybris subjacens* (Walker)

2007 年 9 月 16 日、牛久市井ノ岡町、採集

ツノトンボ科の種は、ウスバカゲロウ科などと比較しても、観察される個体数が少なく多産することのない分類群であるため、県内の他地域においても情報を収集していく必要がある。

引用文献

榎本友好, 1997 牛久自然観察の森における昆虫目録, 牛久自然観察の森(編).牛久自然観察の森環境調査報告書 II, pp. 112-126, 牛久市都市計画部みどり課.

久保田正秀. 1993. アミメカゲロウ目. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 86-87, 水戸市立博物館.

守谷町自然調査会 (編). 2000. もりやの自然誌. 321pp., 守谷町教育委員会.

2007年のアミメカゲロウ目昆虫の文献

2007 年に印刷された前述以外のアミメカゲロウ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

コウチュウ目

大桃定洋

2007年のコウチュウ目昆虫の動向

1. コウチュウ目昆虫の調査状況

茨城県内に生息するコウチュウ目昆虫の調査状況は遅速ながら着実に進んでいる。基礎となる1993年の目録では96科1,932種であったが、2000年のまとめでは107科2,412種、2005年の補遺(1)では112科2,583種となった。2007年12月31日現在では、ヒラタムシ科とチビヒラタムシ科の分割による1科増を含む81種を追加して115科2,718種となった(文献記録7種を含む)。なお、茨城県産カミキリ目録が市川らによって編集集中である。

2. 追加記録

本年度は県初記録として以下の81種を追加報告する。なお、大子町八溝山山頂付近に設置したマレーゼトラップおよび衝突板トラップに捕獲された多数の貴重な標本が市毛勝義氏から提供されたことを記しておく。

1. ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1) コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acminatus Motschulsky

東茨城郡茨城町・奥谷(柳田, 2007)。

2. コツブゲンゴロウ科 Noteridae

1) キボシツブゲンゴロウ

Neohydrocoptus bivittis (Motschulsky)

土浦市(後藤ら, 2006)。日本の北限の記録。

3. ガムシ科 Hydrophilidae

1) マルヒラタガムシ

Enocherus subsignatus (Harold)

1 ex., 15.IV. 2007, 牛久市下根町, 高橋敬一(以下, 姓のみに省略)採集。

4. シデムシ科 Silphidae

1) ヒメモンシデムシ

Nicrophorus montivagus Lewis

1 ex., 29. V. - 19. IV. 2007, 大子町八溝山(マレーゼトラップ, alt. 950m), 市毛勝義(以下, 姓のみに省略)採集。

5. エンマムシ科 Histeridae

1) ツツエンマムシ *Trypeticus fagi* (Lewis)

1 ex., 16. IX. - 7. X. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

2) マルチビヒラタエンマムシ

Cryptomalus montivagus (Lewis)

1 ex., 7-14. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集。

6. タマキノコムシ科 Leiodidae

1) ワモンマルタマキノコムシ

Agathidium annulatum Hisamatsu

1 ex., 7-26. X. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

2) マルムネタマキノコムシ

Agathidium crassicorne Portevin

3 exs., 26. VI. - 3. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

3) アカタマキノコムシ *Leiodes alpicola* Nakane

4 exs., 3-10. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

4) ウスイロヒメタマキノコムシ

Pseudocolensis hilleri Reitter

1 ex., 20-29. IV. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集。

7. ハネカクシ科 Staphylinidae

1) キイロツヤシデムシモドキ

Camioleum loripes Lewis

1 ex., 22. IX. 2004 / 2 exs., 10. V. 2005, 常陸太田市(旧里美村)里川町・三鉢室, 高野採集。

- 2) ナガセスジハネカクシ
Micropeplus hiromasai Watanabe et Shibata
1 ex., 9. V. 2005, 牛久市奥原, 大桃採集.
- 3) クロツヤミズギワヨツメハネカクシ
Psephidonus sinuatus (Sharp)
2 exs., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・中郷の沢, 大桃採集.
- 4) アシュラメダカハネカクシ
Stenus asyura Nomura
1 ex., 8. XI. 2006, 大子町八溝山山頂, 高橋採集.
- 5) ヒメオオキバハネカクシ
Oxyporus basicornis Cameron
1 ex., 29. V. - 19. IV. 2007, 大子町八溝山(マレーゼトラップ, alt. 950m), 市毛採集.
- 6) キバネセミゾハネカクシ
Stengria sapida (Sharp)
1 ex., 9. IV. 2006, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦湖畔, 大桃採集.
- 7) ツヤケシアカバハネカクシ
Platydracus vicarius Sharp
1 ex., 29. V. - 19. IV. 2007, 大子町八溝山(マレーゼトラップ, alt. 950m), 市毛採集.
- 8) オオハネカクシ
Creophilus maxillosus Linnaeus
1 ex., 29. VI. 1985, 石岡市(旧八郷町)湯袋峠/3 exs., 9. IV. 2006, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦湖畔, 大桃採集.
- 9) オオマルズハネカクシ
Domene crassicornis (Sharp)
2 exs., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・中郷の沢, 大桃採集.
8. デオキノコムシ科 Scaphidiidae
1) ツブデオキノコムシ
Pseudobironium lewisi Achard
1 ex., 19. VI. 2002, 常陸太田市(旧金砂郷村)西金砂山, 高野採集.
9. コガネムシ科 Scarabaedae
1) マルオクロコガネ
Holotrichia convexopyga Moser
1 ex., 29. V. 2004, 竜ヶ崎市久保台, 高野採集.
10. マルハナノミ科 Scirtidae
1) カントウホソチビマルハナノミ
Cyphon vulgaris Yoshitomi
岩瀬町上野沼/岩瀬町松田/桜川市(旧大和村)大和西大池/磯原町/北茨城市関本町亀谷地(Yoshitomi, 2005).
2) キイロチビマルハナノミ
Cyphon fuscomarginatus Nakane
土浦市(Yoshitomi, 2005).
3) チャイロチビマルハナノミ
Cyphon consobrinus Nyholm
稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦畔(Yoshitomi, 2005)/2 exs., 26. VIII. 2007, 常陸大宮市(旧御前山村)根岸・那珂川畔(灯火採集), 大桃採集.
4) セダカマルハナノミ
Prionocyphon ovalis Kiesenwetter
3♀, 26. VIII. 2007, 常陸大宮市(旧御前山村)根岸・那珂川畔(灯火採集), 大桃採集.
5) ルイスキムネマルハナノミ
Sacodes dux (Lewis)
1 ex., 29. V. - 19. IV. 2007, 大子町八溝山(マレーゼトラップ, alt. 950m), 市毛採集.
11. マルトゲムシ科 Byrrhidae
1) サシゲケシマルトゲムシ
Syncalypta japonica Nakane
1 ex., 26. VIII. 2007, 常陸大宮市(旧御前山村)根岸・那珂川畔(灯火採集), 大桃採集.
12. ヒラタドロムシ科 Psephenidae
1) ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ
Macroebria similis Lee, Yang and M.Sato
5♂1♀, 8. VII. 2006, 日立市久慈浜海岸, 大桃採集.
13. コメツキダマシ科 Eucnemidae
1) フトヒゲコメツキダマシ

- Fryanus japonicus* Hisamatsu
 1) 1♀, 3. 10. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
 2) トゲナカミゾコメツキダマシ
Rhacopus modestus (Fleutiaux)
 1 ex., 16 - 25. VI. / 2 exs., 1 - 12. VIII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
 3) ヒメコメツキダマシ
Hypocoelus japonicus Fleutiaux
 1 ex., 3 - 10. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
 4) クロヒメミゾコメツキダマシ
Dromaeolus lewisi Fleutiaux
 1 ex., 3 - 10. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
14. コメツキムシ科 Elateridae
 1) クロツヤミズギワコメツキ
Gamepenthesis similis (Lewis)
 3 exs., 5. VI. 1999, 竜ヶ崎市女化神社, 高野採集.
 2) ヒメキマダラコメツキ
Gamepenthesis similis (Lewis)
 4 exs., 10 - 20. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
15. ジョウカイボン科 Cantharidae
 1) クロツマキジョウカイ
Malthinus japonicus Ohbayashi
 1 ex., 26. V. 2005, 北茨城市関本町・定波, 大桃採集.
16. ベニボタル科 Lycidae
 1) アカミスジヒシベニボタル
Benibotarus sanguipennis Nakane et Ohbayashi
 1 ex., 14 - 20. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集.
17. カツオブシムシ科 Demestidae
 1) チビケカツオブシムシ
Trinodes rufescens Reitter
 3 exs., 6. VI. 2004, 土浦市永井, 高野採集.
18. シバンムシ科 Anobiidae
 1) アカチャホソシバンムシ
Oligomerus japonicus Sakai
 1 ex., 7 - 14. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集.
19. ケシキスイ科 Nitidulidae
 1) ミカドチビケシキスイ
Meligethes mikado Reitter
 11 exs., 16. VI. 1998, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦, 高野採集.
 2) ツヤチビヒラタケシキスイ
Haptoncus concolor Murray
 1 ex., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・北の根, 大桃採集.
 3) コゲチャヒラタケシキスイ
Epuraea japonica (Motschulsky)
 3 exs., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・仏国寺, 大桃採集.
 4) セグロヒラタケシキスイ
Epuraea densepunctata Nakane et Hisamatsu
 1 ex., 14 - 20. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集.
20. ネスイムシ科 Rhizophagidae
 1) ニセデオネスイ
Europs ferrugineum Reitter
 2 exs., 25. IV. 2005, 北茨城市関本町・定波, 高橋採集; 2 exs., 10 - 20. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
 2) ムクゲネスイ
Rhizophagus subvillosus Reitter
 1 ex., 7 - 14. V. / 1 ex., 20 - 29. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集.
 3) コバケデオネスイ
Mimemodes japonus (Reitter)
 1 ex., 22. X. 2007, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦畔, 大桃採集.

21. チビヒラタムシ科 Laemophloedae

以前はヒラタムシ科の一亜科として扱われていたが、近年は独立の科に昇格させている。そこで、本リストでも新たに本科を設け、従来はヒラタムシ科として記録していた 6 種を移した。

1) ホソチビヒラタムシ

Leptophloeus convexiusculus (Grouvelle)

1 ex., 18. VI. 2005, 笠間市稲田・西念寺, 大桃採集。最近, チビヒラタムシ科が再検討(平野, 2007b)され, 本種を同定することができた。

2) ヒレルチビヒラタムシ

Xylolestes hilleri (Reitter)

1 ex., 13 - 19. VI. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。平野の同定表と解説(2007b)によって同定した。

22. ホソヒラタムシ科 Silvanidae

1) ヒメフタトゲホソヒラタムシ

Silvanus lewisi Reitter

1 ex., 21. IV. 2007, 笠間市稲田・西念寺, 大桃採集。

23. キスイムシ科 Cryptophagidae

1) ムネスジキスイ

Henotiderus centromaculatus Reitter

1 ex., 29. IV-6. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(衝突板トラップ), 市毛採集。

2) トゲムネキスイ

Cryotophagus acutangulus Gyllenhal

2 exs., 11. VIII. 2005, 牛久市下根町, 高橋採集; 1 ex., 9. X. 2005, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦湖畔, 大桃採集。

3) ニホンヒゲブトキスイ

Cryotophagus japonicus Reitter

1 ex., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・北の根, 大桃採集。

24. オオキノコムシ科 Erotylidae

1) ネアカチビオオキノコ

Tritoma taniguchii Chujo

1 ex., 20 - 30. VIII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

25. マルテントウダマシ科 Mychothenidae

1) ムナグロマルテントウダマ

Dexialia mirabilis Sasaji

1 ex., 1 - 12. VIII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集。

2) マルガタテントウダマ

Bystodes orbicularis (Gorham)

3 exs., 17. VI. 2007, 北茨城市関本町・小川, 大桃採集; 1 ex., 17. VI. 2007, 北茨城市関本町・定波, 高橋採集。

26. テントウムシ科 Coccinellidae

1) セボシヒメテントウ

Pseudoscymnus seboshii (Ohta)

2 exs., 6 - 20. V/6 exs., 20 - 29. V. 2007, 大子町八溝山山頂付近(マレーゼトラップ), 市毛採集。

27. ヒメハナムシ科 Phalacridae

1) チビヒメハナムシ

Stilbus pumilis (Hochhuth)

1 ex., 7. X. 2007, 取手市小文間, 大桃採集。

28. キノコムシダマシ科 Tetratomidae

1) ホソアカバコキノコムシダマシ

Pisenus chujoii Miyatake

1 ex., 29. IV. 2007, 城里町(旧七会村)塩子・仏国寺, 高橋採集。

29. ナガクチキムシ科 Melandryidae

1) ヒメホソナガクチキ

Serropalpus coxalis Mank

1 ex., 24. VI. 2007, 笠間市(旧岩間町)愛宕山, 大桃採集。

2) カタアカナガクチキムシ

Hira humeralis Hayashi

2 exs., 29. V - 19. VI. 2007, 大子町八溝山山頂付近(マレーゼトラップ), 市毛採集。

30. ハナノミ科 Mordellidae

1) クロズヒメハナノミ *Mordellina longula* (Kono)

- 1 ex., 25. VI - 3. VII. 2005, 北茨城市関本町・定波(マレーゼトラップ), 市毛採集.
- 2) フタオビヒメハナノミ
Mordellina signatella (Marseul)
1 ex., 27. VIII. 2006, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦湖畔, 大桃採集.
- 3) ナカネヒメハナノミ
Falsomordellistina aurofasciata Nakane
2 exs., 19. VI - 7. VII. 2007, 大子町八溝山山頂付近(マレーゼトラップ), 市毛採集.
31. アカハネムシ科 Pyrochroidae
- 1) オニアカハネムシ
Pseudopyrochra japonica (Heyden)
1♂, 26. VI. 2006, 北茨城市関本町・定波, 大桃採集; 2♂4♀, 29. V - 19. VI. 2007, 大子町八溝山山頂付近(マレーゼトラップ), 市毛採集. 普通種ではあるが, なぜか記録されなかった.
32. アリモドキ科 Anthicidae
- 1) チビイッカク
Mecynotarsus minimus Marseul
1 ex., 26. VIII. 2007, 常陸大宮市(旧御前山村)那珂川畔(灯火), 高橋採集.
- 2) ホソアシチビイッカク
Mecynotarsus tenuipes (Champion)
3 exs., 17. X. 2004, 鹿嶋市荒井, 高野採集. 砂浜の砂を篩って採集した.
33. ニセクビボソムシ科 Aderidae
- 1) アシマガリニセクビボソムシ
Pseudolotelus distartus (Champion)
1♀, 24. VI. 2007, 笠間市(旧岩間町)愛宕山 / 1♀, 22. X. 2007, 稲敷市(旧桜川村)浮島・霞ヶ浦畔, 大桃採集.
34. カミキリムシ科 Cerambycidae
- 1) ラミーカミキリ
Paraglenea fortunei (Saunders)
竜ヶ崎市河内町宮淵(利根川土手)(久保田, 2007).
35. ハムシ科 Chrysomelidae
- 1) ムツキボシハムシ
Cryptocephalus ohnoi Kimoto
1 ex., 1. VIII. 2004, 大子町八溝山(alt. 900m), 高野採集.
- 2) オオキイロノミハムシ
Asiorestia obscuritarsis (Motschulsky)
2 exs., 10. IX. 2004, 常陸太田市(旧里美村里川町・三鈷室山, 高野採集.
- 3) ホオノキセダカトビハムシ
Lanka magnoliae (Chujo et Ohno)
1 ex., 10. V. 2005, 常陸太田市(旧里美村里川町・三鈷室山, 高野採集.
36. ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae
- 1) コモンマダラヒゲナガゾウムシ
Litocerus multiguttatus (Nakane)
1 ex., 22. V. 1990, 常陸太田市(旧里美村里川町・里美牧場, 西山採集.
37. ゾウムシ科 Curculionidae
- 1) ハバビロヒゲボソゾウムシ
Phyllobius japonicus Faust
取手市小文間, 取手市戸頭, 守谷市高野, 下妻市小貝川ふれあい公園(山中・高野, 2007).
- 2) ホソフタホシヒメゾウムシ
Nespilobaris parabasimaculata (Morimoto et Lee)
2 exs., 28. VII. 2002, 常陸太田市(旧里美村里川町・三鈷室山, 高野採集.
- 3) アラハダシラホシゾウムシ
Shirahoshizo rugipennis Morimoto
1 ex., 24. V. 2002, つくば市松の里, 高野採集.
- 4) コマツノシラホシゾウムシ
Shirahoshizo pini Morimoto
1 ex., 21. VI. 1994, つくば市松の里; 1 ex., 30. VIII. 2003, 鹿嶋市小山, 高野採集.
- 5) ミスジマルゾウムシ
Phaeopholus ornatus Roelofs
2 exs., 28. V. 2005, 鹿嶋市和 / 3 exs., 17. VI. 2006, 稲敷市上根本・阿弥陀寺 / 4 exs., 2. VI. 2007, 潮来市永山, 高野採集.

- 6) ツヤクロツブゾウムシ
Sphinxis crypticus Kojima et Morimoto
 1 ex., 1. VIII. 1998, 大子町八溝山(alt. 950m) / 1 ex., 20. VI. 2006, つくば市筑波山自然観察路, 高野採集.
- 7) モミハモグリゾウムシ
Parendaesus abietinus Kojima et Morimoto
 3 exs., 1. VIII. 2004, 大子町八溝山(alt. 900m), 高野採集.
- 8) オリーブアナアキゾウムシ
Pimelocerus perforates (Roelofs)
 4 exs., 10. VI. 2006, 日立市久慈浜海岸, 大桃採集.
38. オサゾウムシ科 Dryophthoridae
 1) キクイサビゾウムシ
Dryophthorus sculpturatus (Wollaston)
 1 ex., 15. VII. 2005, つくば市松の里, 高野採集.
39. キクイムシ科 Scolytidae
 1) キイロコキクイムシ
Cryphalus fulvus Nijima
 1 ex., 10. VI. 2006, 日立市久慈浜海岸, 大桃採集.
- 山中陽子・高野 勉. 2007. 茨城県におけるハバビロホソヒゲゾウムシの採集記録. 月刊むし, (441): 40.
- 長谷川道明・大林延夫. 2001. 日本産チビコブカミキリ類について. 月刊むし, (366): 10-15.
- 平野幸彦. 2007a. 日本産ネスイムシ科 Monotomidae について, *Kanagawa-Chuho*, (158): 11-20.
- 平野幸彦. 2007b. 日本産チビヒラタムシ科について, *Kanagawa-Chuho*, (160): 15-33.
- 柳田紀行. 2007. 茨城町でコマルケンゲンゴロウを採集. るりぼし, (34): 45-46.
- 吉田岳空・吉田睦浩. 2007. アカジマトラカミキリを常陸太田市で採集. るりぼし, (34): 45.
- Yoshitomi, H. 2005. Systematic revision of the family Scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). *Jpn. J. Sys. ent., Monographic Ser.*, (3): 212.

2007年のコウチュウ目昆虫の文献

2007年に印刷された前述以外のコウチュウ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

Makino, S., H. Goto, M. Hasegawa, K. Okabe, H. Tanaka, T. Inoue and I. Okochi. 2007. Degradation of longicorn beetle (Coleoptera, Cerambycidae, Disteniidae) fauna caused by conversion from broad-leaved to man-made conifer stands of *Cryptomeria japonica* (Taxodiaceae) in central Japan. *Ecol. Res.* 22: 372-381.

牧野俊一・岡部貴美子・井上大成・後藤秀章・長谷川元洋・大河内勇・田中浩. 2007. スギ林化で昆虫の多様性は減るのだろうか?. 研究の森から, (166): 1-2.

Masuya, H. 2007. Note on the dieback of *Cornus florida* caused by *Xylosandrus compactus*. *Bulletin of FFPRI*, 6(402): 59 – 63.

東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

引用文献

- 荒井充朗・江本健一. 2002. ヤマトチビコバナカミキリを茨城県守谷市で採集, 月刊むし, (382): 大桃定洋. 2007a. 茨城県内で採集した3種のカミキリ. るりぼし, (34): 43-44.
- 大桃定洋. 2007b. 茨城県の甲虫類-日本鞘翅学会第19回大会(千葉)シンポジウム-. 房総の昆虫, (38): 2-8.
- 久保田正秀. 2007. 茨城県でラミーカミキリを採集. るりぼし, (34): 44.
- 後藤 章・西原省吾・須田真一・角谷 拓・石井 潤・鷺谷いずみ. 2006. 準絶滅危惧 (NT) キボシチビコツブゲンゴロウ (コウチュウ目: コツブゲンゴロウ科) の新産地. 茨城県自然博物館研究報告, (9): 27-29.

コウチュウ目 (水生コウチュウ類)

疋田 直之

2007 年水生コウチュウ類の動向

1. コマルシジミガムシの茨城県内分布について

コマルシジミガムシ *Laccobius (Cyclolaccobius) masataikai* Kamite et al. は、2007 年 5 月に茨城県日立市大甕町、福島県大沼郡三島町、山形県西置賜郡小国町および神奈川県相模原市田名の標本をもとに新種として記載された (Kamite ほか, 2007)。また、本種が属するマルシジミガムシ亜属 *Cyclolaccobius* は、アフリカ東南部、アラビア、ヒマラヤ山地、東南アジア、中国及び台湾から 27 種が報告されているが、日本からは初めて記録された。本種に最も近縁な種は、台湾産の *L. politus* Gentili であるが、雄交尾器の形状により容易に識別することが可能である。

本種はこれまで水生甲虫の調査の際にあまり重要視されていなかった、水が伝う藻類が付着した岩盤に生息しており、注意深く調査しても付近の河川中からは採集されていない。E. Gentili 氏の私信では、マルシジミガムシ亜属の他種も同様な環境から採集されているようである。このような環境に生息するシジミガムシ属は、上記論文で山形県西村山郡朝日町産の標本をもとに同時に記載された、日本新産亜属であるミゾシジミガムシ亜属 *Glyptolaccobius* のミゾシジミガムシ *L. moriyai* と後述するヒメシジミガムシ亜属のコモンシジミガムシ *L. (Microlaccobius) oscillans* Sharp が確認されている。沖縄県の同様な環境では、ガムシ科の新属と考えられるものも採集されており、水生甲虫研究者の間では、岩盤上の水環境が近年注目されている。なお記載後、水生甲虫研究者の熱心な調査にもかかわらず、本種は静岡・新潟県以西からは未だ発見されていない。

2007 年に茨城県における本種の分布調査を行い、以下の 4 産地を追加した。なお、採集者はすべて筆者である。

2 exs., 19.VIII. 2007, 日立市川尻町小貝浜 (alt.0m).

3exs., 25.VIII. 2007, 久慈郡大子町八溝山 (alt. 450m).

2exs., 2.IX. 2007, 東茨城郡城里町皇都皇都川 (alt.40m).

2exs., 2.IX. 2007, 常陸大宮市上伊勢畑相川 (alt.50m).

原記載に使用された標本の産地は、悪天候時には海水の影響を直接受ける海岸から豪雪地域の標高約 700m の山地にまで及んでいる。今回の調査でも、本種が県内の海岸線から内陸の山地まで広い範囲に分布していることが確認され、生息環境さえ整っていれば岩盤の種類や標高に関係なく生息していることから、今後調査を続ければ県内中・北部で新しい産地を追加することは容易であると考えられる。また、上記産地のうち日立市川尻町小貝浜では、幅 1m 程の小河川に護岸のため設置されたコンクリートブロックからも採集されており、人工的な環境でも条件がそろえば本種が生息することを示唆している。さらに、久慈郡大子町八溝山以外の産地では、コモンシジミガムシが同所的に観察された。コモンシジミガムシは河川中・下流域の多様な環境に生息している種で、水が伝わる岩盤を主な生息環境としているコマルシジミガムシと共存が可能と考えられる。一方、上手雄貴氏からの私信によると、山形県における調査では異亜属のミゾシジミガムシとコマルシジミガムシが極めて近接した場所で採集されているにもかかわらず、同所的に両種は観察されていない。このことはシジミガムシ属の生態を研究するにあたり非常に興味深いことである。

2. 八溝山山頂部における水生甲虫の減少について

2007 年 4 月 22 日に、久慈郡大子町八溝山の山頂部において水生甲虫の調査を行った。早い時期

にもかかわらず、山頂付近の林床には残雪も全くなく、カタクリやニリンソウの花が咲き始めていた。山頂部周辺の沢に降りてみたが、水生甲虫を採集できるような流れはなく、涸れ沢を掘ってやっと水が滲み出して流れはじめる状態であった。ここで採集できた水生甲虫はコクロマメゲンゴロウ *Platambus insolitus* (Sharp) が 1 個体のみであった。本種は *Platambus* 属中最も上流域に分布する種で、水深のほとんどないような水域からも採集されている。

過去の記録を見ると 1990 年フィフドノートに、同所において 5 月 29 日に多数のコクロマメゲンゴロウとクロマメゲンゴロウ *P. stygius* (Regimbart) が採集されたという大桃定洋博士と阿部光典氏からの私信を受けて 4 月 26 日に採集に向かったが、残雪が多く採集できなかったことが記録されている。その後、同年 6 月 3 日に再び調査を行い、上記 2 種を多数採集した。また、水深 50cm 程の溪流横にできた窪みに溜まった落ち葉に付着した多数のマルヒゲナガハナノミ *Cophaesthetus brevis* (Sharp) の幼虫を観察したことも書かれていた。

八溝山山頂部は、1990 年代前半までの採集経験から、5 月上旬までは残雪があり表土が凍結していて、水生甲虫の採集に適さないと考えていたが、近年の状況はそうではない。また、特に春期の林床の乾燥が顕著であり、沢の源頭もより斜面の下部に後退し、水量も減少しているように感じる。山頂付近で過去に多数観察された、ある程度水深がある水域を好む、クロマメゲンゴロウやマルヒゲナガハナノミは 2000 年頃から確実に姿を消している。さらに、コクロマメゲンゴロウの個体数の減少も著しい。近年続く暖冬は昆虫の北進だけでなく、一部の昆虫においては生息地の縮小を招いている可能性もあり、継続的な調査が必要である。

引用文献

- Kamite, Y., T. Ogata and N. Hikida. 2007. Two New Species of the Genus *Laccobius* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Japan. *Elytra*, 35(1): 34-41.

ハチ目

久松 正樹

2007年のハチ目昆虫の動向

2007年は、茨城県内各地で最高記録を更新するなど、いわゆる猛暑の夏であった。スズメバチなど植物繊維を用いて巣をつくる種は、営巣時期の天候によって巣の規模が左右されといわれている。2007年8月は例年より高温小雨の月であったが、7月はむしろ低温多雨の月であった。スズメバチの繁殖は、気象の他にもさまざまな影響が考えられるが2007年は新聞紙上をにぎわせるようなハチの被害報道はなかった。

久松(2007)は、2006年に坂東市大崎のミュージアムパーク茨城県自然博物館でチャイロスズメバチ *Vespa dybowskii* Andre を採集したが、2007年も近隣で観察され、定着の可能性が高い。2007年に確認された場所は、坂東市大谷口の泉福寺境内、坂東市法師戸の常総カントリー倶楽部、常総市大塚戸の3カ所である(田迎真人, 私信)。田迎氏によると、全てモンズズメバチ *Vespa crabro flavofasciata* Cameron の巣を乗っ取っていた。博物館周辺は、寄主となるモンズズメバチがよく見られる地域である。今後もチャイロスズメバチの個体数の推移を見まもりたい。

久松は2007年に美浦村土浦の陸平遺跡に置いて、ハナバチ類の採集を1年間通して実施し5科53種を確認した。詳細は別報に譲るとして、オオエチビコハナバチ *Lasioglossum (Evylaeus) ohei* Hirashima et Sakagami (32 exs.), ハルノツヤコハナバチ *Lasioglossum (Lasioglossum) primavera* Sakagami et Maeta (50 exs.) は、茨城県初記録となるハナバチである。同地ではナミルリモンハナバチ *Thyreus decorus* (Smith) (42 exs.), ハラアカヤドリハキリバチ *Euaspidia basalis* (Ritsema) (16 exs.), シロスジフトハナバチ *Amegilla quadrifasciata* (Villers) (50 exs.) が、多量に採集されたことが目立った。ハナバチ以外の種では、茨城県で希少種に選定されているニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* F.Smith が採集された(1♀, 16 VIII 2007;

1♀, 26 VIII 2007)。

陸平遺跡に近い美浦村大谷の大谷小学校グラウンドの砂場では、ニッポンハナダカバチの集団発生を確認した。美浦村では、ニッポンハナダカバチが広く生息しており、巣作りに好条件が整うと多量に発生するのだと思われる。大谷小学校で発生したニッポンハナダカバチは、2007年7月25日に8♀9♂を採集した。また、同日同地においてヤマトスナハキバチ *Bembecinus hungaricus japonicas* (Sonan)(2♂), ヤマトコトガタバチ *Lyroda nigra japonica* Iwata (1♀) も採集した。ヤマトスナハキバチは県希少種、ヤマトコトガタバチは県初記録種である。

引用文献

久松正樹. 2007a. 茨城県坂東市におけるチャイロスズメバチ(ハチ目: スズメバチ科)の採集記録. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 11-12.

2007年のハチ目昆虫の文献

2007年に印刷された前述以外のハチ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。三浦ほか(2007)は、2003年に宍塚大池でアリ相を調査した報告で、4亜科16属23種を報告した。久松(2007b)は、茨城県初記録となる4科13種のアナバチ類(アナバチ型ハチ類) Spheciformes を報告した。

久松正樹. 2007b. 茨城県で初記録となるアナバチ類(Hymenoptera: Spheciformes). 茨城県自然博物館研究報告, (10): 57-59.

久松正樹. 2007c. 茨城県の海岸砂丘部における野生ハナバチ相. 日本昆虫学会第67回大会事務局(編). 日本昆虫学会第67回大会講演要旨. pp. 75, 日本昆虫学会第67回大会事務局.

井上大成・濱口京子・久松正樹. 2007. 茨城県においてムモンアカシジミ(チョウ目: シジミチョ

- ウ科) 幼虫に随伴していたアリの一種. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 17-18.
- 三浦大輔・山根爽一・菱田晃史・興野俊之・齋藤敬志・桑原隆明・井上尚武. 2007. 茨城県土浦市の穴塚大池里山におけるアリ相. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 1-10.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp. 東海村教育委員会.
- 鈴木成美. 2007. クヌギエダイガタマバチの産卵に出会う. 茨城生物, (27): 64.

シリアゲムシ目

櫻井 浩

2007年のシリアゲムシ目昆虫の動向

シリアゲムシ目昆虫については、1980年代に岩崎(1980, 1983)によって、シリアゲムシ目調査の動きが始まった。しかし、茨城県でのシリアゲムシ目昆虫の報告は、成田(1992, 1993)によるシリアゲムシ科5種の報告と、美野里生物の会(2005)による2種の報告が見られるにすぎなかった。遅々として進まなかったシリアゲムシ目昆虫の調査であるが、筆者は2007年にガガンボモドキ科4種の報告をまとめた(櫻井, 2007)。

茨城県におけるシリアゲムシ目昆虫の調査は、これから始まるといったほうがよいだろう。以下に、シリアゲムシ目昆虫の生息状況などを記しておく。

ガガンボモドキ科

ガガンボモドキ *Bittacus nipponicus* Navas

茨城県内では、平地から山地まで広く生息が確認されている。平地では雑木林の林床に生息し、特に湿地や池に近い湿り気のある林を好むようである。また、下草狩りがされた雑木林での生息密度は高いようである。スギやヒノキの林でも、シダなどの植物が多い場所を好むようである。

県北の山間部では、蛇行した川に沿った平坦で湿った林(標高500mほど)で、本種の生息を確認している。キアシガガンボモドキと混棲していた。

トガリバガガンボモドキ *Bittacus mastrillii* Navas

茨城県では標高が850m以上の八溝山山頂付近で生息が確認された。個体数は多くない。

キアシガガンボモドキ *Bittacus laevipes* Navas

標高が500~1000mの山間部で見られ、ミヤコザサの群落やその周辺に多い。筑波山から大子、北茨城まで広く生息する。

ガガンボモドキの一種 *Bittacus* sp.

栃木から報告されている未記載種(中村, 2000)と同じ種で、東北地方の山地を中心に分布するクロヒメガガンボモドキに近縁のヒメガガンボモドキ群の一種である。茨城県では、高萩市の上君田と下君田で確認されている。沢沿いや湿地の周辺で見られ、特に林床に低木常緑樹の多い環境に見られた。

シリアゲムシ科

スカシシリアゲモドキ

Panorpodes paradoxus MacLachlan

筑波山から県北各地の山地に生息すると思われる。

キシタトゲシリアゲ *Panorpa fulvicaudaria* Miyake

御前山(成田, 1992)の他に、2007年に筆者が行った調査では吾国山と加波山で確認された。

プライヤシリアゲ *Panorpa pryeri* MacLachlan

キバネシリアゲ *Panorpa ochraceopennis* Miyake

マルバネシリアゲ *Panorpa nipponensis* Navas

上記の3種は県北部の山地からのみ記録されている。筑波山塊や多賀山地での生息状況などの詳細な調査が必要である。

ヤマトシリアゲ *Panorpa japonica* Thunberg

平地から山地まで広く生息している。体色が黄褐色でベッコウシリアゲといわれる季節型は、夏以降に出現するのが普通だが、平野部の湿地から春にも記録されている。今後、詳細な調査が必要だろう。

引用文献

岩崎 靖. 1980. シリアゲムシ分布調査に協力を-日本におけるシリアゲムシ分類の現状. おとしぶみ, (9): 37-40.

- 岩崎 靖. 1983. 日本産長翅目リスト. おとしぶ
み, (12): 32-38.
- 美野里生物の会 (編). 2005. みのりの自然. 312
pp., 美野里町教育委員会.
- 中村剛之. 2000. 栃木県の長翅目 (昆虫綱). 栃木
県立博物館研究紀要-自然-. (17) : 1-18.
- 成田行弘. 1992. 茨城県のシリアゲムシ. るりぼ
し, (17): 36.
- 成田行弘. 1993. シリアゲムシ目. 水戸昆虫研究
会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 216, 水戸市立博
物館.
- 桜井 浩. 2007. 茨城県のガガンボモドキ. るり
ぼし, (34): 2-6.

2007年のシリアゲムシ目昆虫の文献

2007年に印刷された前述以外のシリアゲムシ
目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌.
350pp., 東海村教育委員会.

ハエ目(主にハナアブ科)

市毛 勝義

2007 年のハエ目昆虫の動向

ハナアブ科の出現時期は、暖冬のため早まると予測されたが、春先の冷え込みではほぼ例年通りの出現となり、晩春～初夏に見られる種類の出現時期も例年通りであった。ところが、近年の温暖化の影響のためか、従来茨城県内で数頭しか記録が無かった南方系のササヤマオビヒラタアブ *Epistrophe sasayamana* (Matsumura) が、7 月に八溝山山頂で多数採集された。

春先に、茨城県南西部の平地のハナアブ類を調査してみた。地形図などでは良さそうな環境に見えても、現地に行くと私有地で立ち入れなかったり、既に開発されていたりと、ハナアブ類を採集できない場所が多かった。県南西部にハナアブ類の良好な生息地は多くない印象を受ける。

筆者は、数年前からトラップによる調査を実施しており、2007 年は八溝山山頂近くのブナ林にマレーズトラップや FIT (flight interception trap) を設置してハエ目についての調査を試みて、残念ながら、トラップ設置に適した風通しの良い場所が見つからず、やむなく林内への設置となった。予想通り、林内が明るい春先はある程度成果があったが、若葉が展開して林内が暗くなってからは殆どハエ目が得られなかった。

2007 年は、分類が不確定であった日本産オビヒラタアブ属の一群を再検討して 14 種に整理した結果、アイノオビヒラタアブ *Epistrophe aino* (Matsumura), エダシゲオビヒラタアブ *E. sp. 1*, ムツモンオビヒラタアブ *E. sp. 2*, オオショクガバエモドキ *E. sp. 3*, ヒロビタイオビヒラタアブ *E. sp. 4*, ニセツヤムネオビヒラタアブ *E. sp. 5*, ササヤマオビヒラタアブ *E. sasayamana* (Matsumura), シバカワオビヒラタアブ *E. shibakawae* (Matsumura) の 8 種が茨城県に分布していることが判明した(市毛, 2007a)。従来、茨城県のオビヒラタアブ属はアイノオビヒラタアブ, オオショクガバエ *E. grossulariae* (Meigen),

ツヤムネオビヒラタアブ *E. nitidicollis* (Meigen) の 3 種が記録されていたが、アイノオビヒラタアブ以外の 2 種は近似した未記載種の誤認であった。

今回発見された中のムツモンオビヒラタアブ *Epistrophe sp. 2* (near *E. euchroma*) は、早春のユキヤナギ等に訪花するハナアブであるが、近縁属と紛らわしいためか、今のところ水戸市で採集した 2 匹しか発見されていない。

ハナアブ科以外では、ガガンボ科 Tipulidae やオドリバエ科 Empididae 等の同定を進めている。日本産のガガンボ科は学名がついている種類だけでも約 700 種あり、実際には 2,000~3,000 種が分布していると予想されている。しかしながら、図鑑などには 70 種ほどしか収録されておらず、同定は困難である。茨城県産のガガンボ科は、井上ほか (1993) に 41 種が記録されているが、古い資料による同定のため、改めて調べなおす必要がある。

オドリバエ科は中～小型の昆虫で一般には馴染みがないが、オスが小昆虫などを捕獲してメスへ求愛する習性を持つユニークな種を含むグループである。日本に産するオドリバエは学名がついているだけで約 180 種が知られているが、実際には 1,000 種を超えるオドリバエが分布していると予想されている。外見での同定が困難なグループなため、茨城県からの記録はほとんどない。

ハエ目は、図鑑や資料等を参考にして同定が出来る種類は極一部であり、殆どのグループが専門家のアドバイスが必要となる。一括して同定を専門家に依頼する方法もあるが、同定のノウハウが蓄積出来ないため常に専門家に頼らざるを得なく成りがちである。現在、これらの分類群について同定を進めており、ある程度まとまった段階で報告する予定である。

引用文献

- 市毛勝義. 2007a. 茨城県産ハナアブ科の記録. はなあぶ, 23: 52-53.
- 市毛勝義. 2007b. 日本産オビヒラタアブ属について. はなあぶ, 24: 13-48.
- 井上尚武・久保田正秀・成田行弘. 1993. ハエ目. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 218-232, 水戸市立博物館.

2007年のハエ目昆虫の文献

2007年に印刷された前述以外のハエ目昆虫に関する文献は、以下の通りである。

- Sueyoshi, M., Okabe, K., Nakamura T. 2007. Host abundance of crane flies (Diptera: Limoniidae) and their role as phoronts of Acari (Arachnida) inhabiting fungal sporophores. *Canadian Entomologist*, 139: 247-257.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

トビケラ目

勝間 信之

2007年のトビケラ目の動向

1. 2007年度の調査採集記録

2007年の茨城県におけるトビケラ目の調査は、県南を中心に筆者が、県北を中心に水戸昆虫研究会会員柳田紀行が、八溝山山頂で水戸昆虫研究会会員市毛勝義が行った述べ11回の調査採集がある。表1にそれらの調査日とその調査者、採集した場所を示す。

2. 調査結果

調査の結果、49種のトビケラ類が確認された(表2)。各種の詳細な記録は他同好会誌などに稿をあらためて発表するとして、ここでは県内初記録種や県内において特徴的な種を挙げておく。

カワトビケラ科 Philopotamidae

Dolophiodes dilatata Kuhara

県北の山地帯のみで確認された。茨城県初記録と思われる。

[採集記録]

1♂1♀, 7, VI, 2007, 高萩市下君田 柳田紀行
1♀, 20, V, 2007, 大子町八溝山山頂 市毛勝義

シンボタニガワトビケラ

Dolophiodes shinboensis (Kobayashi)

県北の山地帯のみで確認された。茨城県初記録と思われる。

[採集記録]

1♀, 29, V, 2007, 大子町八溝山山頂 市毛勝義

表 1. 採集記録一覧

月日	調査者	場所	調査方法
2007年5月26日	勝間 信之	取手市戸頭(利根川)	ライトトラップ
2007年6月7日	柳田 紀行	高萩市下君田(大北川)	ライトトラップ
2007年6月7日	柳田 紀行	大子町上の宮腐沢(八溝川)	ライトトラップ
2007年6月24日	勝間 信之	笠間市南小泉(涸沼川)	ライトトラップ
2007年7月21日	勝間 信之	坂東市神田山(菅生沼)	ライトトラップ
2007年8月12日	勝間 信之	桜川市羽鳥(男の川)	ライトトラップ
2007年8月25日	勝間 信之	常総市菅生町(菅生沼)	ライトトラップ
2007年9月10日	勝間 信之	笠間市南小泉(涸沼川)	任意採集
2007年9月10日	勝間 信之	常陸大宮市下伊勢畑(相川)	任意採集
2007年10月28日	勝間 信之	つくば市神郡(細草川)	任意採集
2007年4月21日～7月24日	市毛 勝義	大子町八溝山山頂	2週間に1回のボトル交換によるマレーズトラップ採集

Kisaura 属の 1 種 *Kisaura* sp.

県北の山地帯のみで確認されており，個体数は他の同属と比較して少ないようである。未記載種であるが（久原，私信），茨城県初記録と思われる。
〔採集記録〕

1♂ 7, VII, 2007, 大子町八溝山山頂 市毛勝義

クダトビケラ科 Psychomyiidae

ヒメクダトビケラ属の 1 種 *Paduniella* sp.

菅生沼で 1 個体が採集された。日本産本属はヒメクダトビケラ *P.amurensis* 1 種のみが記録されているが，未記載種も多く存在するという（西本，私信）。今回採集された種は♂交尾器の形状が *P.amurensis* に酷似するが，paramere の形状，inferior appendage 先端の形状の違いにより未記載の別種と思われる。茨城県初記録であるが，今回の記録で本属が南西諸島から関東地方まで分布することが明らかとなった。

〔採集記録〕

1♂ 21, VII, 2007, 坂東市神田山 筆者

ムネカクトビケラ科 Ecnomidae

ヤマシロムネカクトビケラ

Ecnomus yamashironis Tsuda (図 1)

利根川水系を中心とした茨城県南部の河川に広く生息しているものと思われるが，他都道府県からの記録は少ない。特に茨城県以北の記録は筆者の調べたところでは確認されなかったことから，現在のところ，本県の記録が北限と思われる。

〔採集記録〕

2♂3♀ 21, VII, 2007, 坂東市神田山 筆者

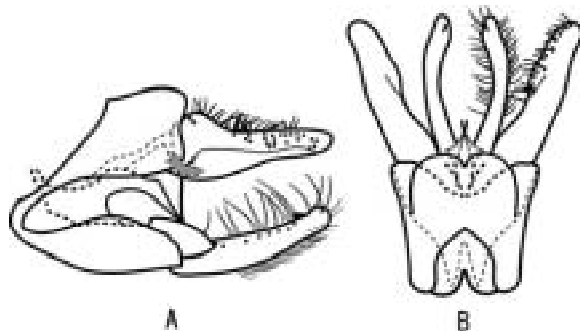


図. 1 ヤマシロムネカクトビケラ *Ecnomus yamashironis* Tsuda ♂交尾器
A: 側面図 B: 背面図

カクスイトビケラ科 Brachycentridae

マルツツトビケラ

Micrasema quadrilobum Martynov

本種は栗田（1993）により記録されているが，その同定根拠が幼虫に基づくものであった。成虫での記録は今回が茨城県初記録となる。

〔採集記録〕

2♂ 7, VI, 2007, 大子町上の宮腐沢 柳田紀行

ヒゲナガトビケラ科 Leptoceridae

セトトビケラ属の 1 種 *Setodes* sp. (aff. *ujiensis*)

県内では県央から県南の下流域にかけて確認され，特に笠間市南小泉の濁沼川では多産しているようである。本種の近似種としてウジセトトビケラ *S.ujiensis* が記載されているが，交尾器の形状が異なるため未記載の別種と思われる（勝間，2006）。また，同種と思われるものが岩手県，宮城県でも確認されており（服部，上西私信），太平洋側の東北から関東までの河川下流域に広く分布していると思われるが，千葉県以南の記録は無く，現在のところ，取手市戸頭での記録が南限と思われる。

〔採集記録〕

2♂1♀ 26, V, 2007, 取手市戸頭 筆者

1♂1♀ 25, VIII, 2007, 常総市菅生町 筆者

154♂113♀, 24, VI, 2007, 笠間市南小泉 筆者

3. 2006 年以前に記録されたトビケラ類の再検討

2006 年以前に記録，発表されたトビケラ類の再検討を行った結果，未記載種として発表した後に記載された種，誤同定と思われる種やさらに詳細な検討が必要な種が数種みられたのでここに記録，訂正しておく。

ケシヤマトビケラ属の 1 種 2（勝間，2006）は，同じく同報文で記録されているケシヤマトビケラ属の 1 種 1 の小型種であり，交尾器の形状が歪に変化したものである（西本，私信）ので本種の記録を削除し，同属の 1 種 1 に統合する。

ミヤコクダトビケラ *Tinodes miyakonis* Tsuda（勝間，2005）は，再検討の結果，記載論文で描かれている交尾器の形状が若干異なること，

三重県で確認された本種(森田, 2007)の交尾器とは inferior appendage の形状が異なることにより近似種の可能性もあることが示され, より詳細な検討が必要とされた。

Polyplectropus protensus Ulmer (勝間, 2005) は, 再検討の結果, 記載論文に描かれている図や記載と違う点がみられることから, 本種の近似種である可能性があり, さらにホロタイプ標本との照合の必要性があるため(野崎, 私信), より詳細な検討が必要とされた。

ギフシマトビケラ *Hydropsyche gifuana* Ulmer (勝間, 2005) は, 幼虫に基づく同定結果であり, 同属の他の種との識別が困難なことから川合・谷田(2005), 本種の記録をシマトビケラ属の 1 種 *Hydropsyche* sp. として訂正する。なお, 本種の成虫は県内ではまだ確認されていない。

ニンギョウトビケラ属の 1 種 *Goera* sp. (勝間, 2005) は, その後, フトオヒメニンギョウトビケラ *G. dilatata* Nozaki et Tanida として新種記載されたので (Nozaki and Tanida, 2006) ここに記録しておく。

チビセトトビケラ *Setodes minutus* Tsuda (勝間, 2006) は, 再検討の結果, 交尾器の違いからロシアで記録されている *S. obscurus* Shumid et Levanidova に似る近似種との誤同定であることが判明したので, セトトビケラ属の 1 種 *Setodes* sp.(aff. *obscurus*) として訂正しておく。

4. 謝辞

北海道の久原直利氏には *Kisaura* 属について, 愛知県の西本博之氏にはヒメクダトビケラ属とケシヤマトビケラ属について, 神奈川県の新崎隆夫氏には *Polyplectropus protensus* について, 静岡県服部壽夫氏と京都府の上西実氏にはセトトビケラ属についての情報をいただいた。記して御礼申し上げます。

引用文献

- 勝間信之. 2005. 茨城県内で確認したトビケラ類の記録 第 1 報). るりぼし, 32: 2-10.
- 勝間信之. 2006. 茨城県内で確認されたトビケラ類の記録 第 2 報)ー常陸大宮市(旧御前山村)相川のトビケラ相一. るりぼし, 33: 33-44.
- 川合禎次・谷田一三(編), 2005. 日本産水生昆虫科・属・種への検索. 1360pp, 東海大学出版会.
- 栗田初美. 1993. トビケラ目 Trichoptera. 水戸昆虫研究会(編), 茨城県の昆虫: 233-237, 水戸市立博物館.
- 森田久幸, 2007. 菰野町でミヤコクダトビケラを採集. ひらくら, 51: 82.
- Nozaki, T. and K. Tanida, 2006. The genus *Goera* Stephens (Trichoptera: Goeridae) in Japan. Zootaxa, 1339: 1-29.

2007 年までの主なトビケラ目昆虫の文献

2007 年までに印刷された前述以外のトビケラ目昆虫に関する主な文献は, 以下の通りである。

- 勝間信之. 2007a. 茨城県常陸太田市でギンボシツツトビケラを採集. るりぼし, 34: 15-16.
- 勝間信之. 2007b. 茨城県那珂市でハンエンカクツツトビケラを採集. るりぼし, 34: 46.
- 河瀬直幹・松村雄・倉西良一・久松正樹, 2004. 茨城県恋瀬川上流域のトビケラ相一マレーズトラップによるトビケラ成虫の調査一. 茨城県自然博物館研究報告, 7: 103-123.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

表 2. 2007 年に茨城県内で確認されたトビケラ目リスト.

No	科名	種名	学名
1	ナガレトビケラ科	キヨスミナガレトビケラ	<i>Rhyacophila kiyosumiensis</i> Kuranishi
2		ニッポンナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nipponica</i> Navás
3		トランスクィラナガレトビケラ	<i>Rhyacophila tranquilla</i> Tsuda
4		ヤマナカナガレトビケラ	<i>Rhyacophila yamanakensis</i> Iwata
5		ツメナガナガレトビケラ	<i>Apsilochorema sutshanum</i> Martynov
6	ヒメトビケラ科	マツイヒメトビケラ	<i>Hydroptila matsuii</i> Kobayashi
7		ヒメトビケラ属の1種	<i>Hydroptila</i> sp. <i>aff.pectinifera</i>
8	ヤマトビケラ科	イノブスヤマトビケラ	<i>Glossosoma ussuricum</i> (Martynov)
9		ケシヤマトビケラ属の1種	<i>Padunia</i> sp.
10	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i> Navás
11	カワトビケラ科	ツダコタニガワトビケラ	<i>Chimarra tsudai</i> Ross
12		<i>Dolophiodes dilatata</i>	<i>Dolophiodes dilatata</i> Kuhara
13		シンボタニガワトビケラ	<i>Dolophilodes shinboensis</i> (Kobayashi)
14		<i>Kisaura dichotoma</i>	<i>Kisaura dichotoma</i> Kuhara & Arefina
15		ハットリタニガワトビケラ	<i>Kisaura hattorii</i> (Kuhara)
16		<i>Kisaura</i> 属の1種	<i>Kisaura</i> sp.
17		<i>Wolmaldia rara</i>	<i>Wolmaldia rara</i> Kobayashi
18	クダトビケラ科	ヒメクダトビケラ属の1種	<i>Paduniella</i> sp.
19		ウルマークダトビケラ	<i>Psychomyia acutipennis</i> (Ulmer)
20		ホソクダトビケラ属の1種	<i>Tinodes</i> sp.
21	ムネカクトビケラ科	ムネカクトビケラ	<i>Ecnomus tenellus</i> Rambur
22		ヤマシロムネカクトビケラ	<i>Ecnomus yamashironis</i> Tsuda
23	イワトビケラ科	キソイワトビケラ	<i>Paranyctiophylax kisoensis</i> Tsuda
24		<i>Polyplectropus protensus</i>	<i>Polyplectropus protensus</i> Ulmer
25		ウルマーイワトビケラ属の1種	<i>Polyplectropus</i> sp.
26	アミメシマトビケラ科	アミメシマトビケラ	<i>Arctopsyche spinifera</i> Ulmer
27	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i> (Iwata)
28		ナミコガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche infascia</i> Martynov
29		キブネシマトビケラ	<i>Diplectrona kibuneana</i> Tsuda
30		シロズシマトビケラ	<i>Hydropsyche albicephala</i> Tanida
31		ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i> Martynov
32		エチゴシマトビケラ	<i>Potamyia chinensis</i> (Ulmer)
33	カクスイトビケラ科	マルツツトビケラ	<i>Micrasema quadrilobum</i> Martynov
34	キタガミトビケラ科	キタガミトビケラ	<i>Limnacentropus insolitus</i> Ulmer
35	カクツツトビケラ科	ヒロオカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma bipertitum</i> (Kobayashi)
36		コカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma japonicum</i> (Tsuda)
37		トウヨウカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma orientale</i> (Tsuda)
38		ヌカピラカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma speculiferum</i> (Matsumura)
39		ツダカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma tsudai</i> (Tani)
40	エグリトビケラ科	エグリトビケラ	<i>Nemotaulius admorsus</i> (McLachlan)
41	コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ	<i>Apatania aberrans</i> (Martynov)
42	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i> Banks
43	ヒゲナガカワトビケラ科	トサカヒゲナガトビケラ	<i>Ceraclea superba</i> (Tsuda)
44		アオヒゲナガトビケラ	<i>Mystacides azureus</i> (Linnaeus)
45		ゴマダラヒゲナガトビケラ	<i>Oecetis nigropunctata</i> Ulmer
46		セトトビケラ属の1種	<i>Setodes</i> sp. <i>aff.ujiensis</i>
47		ヒメセトトビケラ	<i>Trichosetodes japonicus</i> Tsuda
48	ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ	<i>Molanna moesta</i> Banks
49	ケトビケラ科	グマガトビケラ属の1種	<i>Gumaga</i> sp.
合計	19科		49種

チョウ目 (チョウ類)

佐々木 泰弘

2007年のチョウ類の動向

2007年茨城県のチョウの動向について、1. 南方系のチョウの北上、2. 分布拡大が見られたチョウ、3. 山地性希少チョウ類の動向の3つについて簡単に述べる。

なお、茨城県に生息するチョウで、分類の再検討により近年、種名が変更になった種は以下の通りである。エゾスジグロシロチョウがエゾスジグロシロチョウ *Artogeia dulcinea* (Butler) とヤマトスジグロシロチョウ *Artogeia nesis* (Fruhstorfer) に分かれ、茨城県に分布するものは後者になる。キチョウがキチョウ (ミナミキチョウ) *Eurema hecabe* (Linnaeus) とキタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza) とに分かれ、茨城県に分布するものは後者になる。

1. 南方系のチョウの北上

1990年代後半より顕著になってきた南方系チョウ類の北上分布拡大が、2007年度も見られた。特にナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* von Siebold、ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius hyperbius* (Linnaeus) の分布拡大がうかがえる。近年、減少傾向が見られたクロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura も県内に確実に住み着いているようである。

ナガサキアゲハ

Papilio memnon thunbergii von Siebold

2003年に龍ヶ崎市で採集されて以来、鹿嶋市、つくば市、霞ヶ浦町等県内各地で確認された。県北山地の太子町腐沢でも確認されており、県内のどの地域で確認されてもおかしくない状況となっている。2007年度も水戸市 (平林, 2007)、鹿嶋市 (清水, 2007) からの報告があった。また、桜川市酒寄のみかん園周辺では、連続した複数個体が確認され、当

地で発生している可能性が高い。

ツマグロヒョウモン

Argyreus hyperbius hyperbius (Linnaeus)

県内の広範囲で確認され、分布が県全域に広がってきている。2007年度も水戸市浜見台では少ないながら発生が確認され (高橋晴彦, 2007)、日立市でも連続した確認があった (塩田, 2007a)。山麓部や平野部では、普通に見られる一般的なヒョウモン類となるかもしれない。

[採集記録]

1♂ 20, X, 2007 桜川市富谷

クロコノマチョウ

Melanitis phedima oitensis Matsumura

一時期個体数が減少し、採集確認の報告は少なくなっているが、2007年度も発生生息していることと考えられる。

[採集記録]

1♂ 7, X, 2007 常陸太田市高貫町

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* (Butler)

県内のマテバシイの植えられたところには広く発生しているようである。分布域は福島県に達しているようである (有賀, 2007)。

[採集記録]

1♀ 27, X, 2007 石岡市八郷小見

2. 分布拡大が見られたチョウ

近年分布域や生息数が多くなっているのはいかと思えるチョウとして、ツマグロキチョウ *Eurema laeta betheseba* (Janson) とアサギマダラ *Parantica sita nipponica* (Moore) をあげておく。この2種は2007年度も調査値の多くで確認できた。

ツマグロキチョウ *Eurema laeta betheseba* (Janson)

10年ほど前は、県内で確認することがほとんどで

きなくなっていた。しかし、近年、確認報告が見られるようになり、2007年度も、那珂市（荒川, 2007）、桜川市（塩田, 2007a）、常陸太田市里美（井上, 2007a）などからの報告があり、筆者も下記のような地点で確認している。いずれの地点も谷津田の奥や、伐採地周辺という環境で食草のカワラケツメイが多数生えているところではなかった。おそらく周辺の発生地域より移動してきた個体と思われる。

〔採集記録〕

- 1ex 7, X, 2007 常陸太田市高貫町
 5exs 20, X, 2007 城里町錫高野
 1ex 20, X, 2007 桜川市富谷
 1ex 27, X, 2007 石岡市吾国山

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* (Moore)

以前から山地部を中心に県内に広く分布していたが、近年分布域がより広がり個体数も増加しているように感じられる。県北地域は幼虫越冬地の北限付近にあたりと考えられているが、その一つの常陸太田市西金砂山で幼虫調査をしたところ、2時間ほどの簡単な調査で道脇のキジョランに30を超える多数個体を確認した。10年前同地域での調査では1日をかけて数個体であったことと比較すれば大きな増加である。同じことは、昨年、常陸太田市真弓山でも経験している。県内発生個体の増加や、栃木、千葉県等からの移動個体の増加が考えられる。

〔採集記録〕

- 1♂ 1, VII, 2007 常陸太田市里美牧場
 1♀ 28, VII, 2007 常陸太田市里美三鉦室山
 1♂ 1, VIII, 2007 北茨城市花園
 1♀(産卵) 7, X, 2007 常陸太田市高貫町
 1♂ 21, X, 2007 常陸太田市松平町
 1♂ 27, X, 2007 石岡市吾国山
 1♀3幼虫確認 2, X II, 2007 常陸太田市西金砂山
 32幼虫確認 8, X II, 2007 常陸太田市西金砂山

3. 山地性希少チョウ類の動向

山地性のチョウ類については、近年減少傾向が見られる。特にチャマダラセセリ *Pyrgus maculatus maculates* (Bremer et Grey)、スジボソヤマキチョウ

ウ *Gonepteryx aspasia nipponica* Bollow、ミヤマカラスシジミ *Strymonidia mera* Janson、ヒメシジミ *Plebejus argus micrargus* (Linnaeus) 等に強く感じられる。2007年度もその傾向を強く感じたが、スジボソヤマキチョウ、ハヤシミドリシジミ *Favonius ultramarines* (Fixsen) を常陸太田市里美地域にて7、8年ぶりに確認できたようなこともあった。山地地域での各種ともさらなる調査が必要である。ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* Butler は八溝山地の福島県と栃木県において、ヒメシロチョウ *Leptidea morsei* (Menetries) は福島県塙町において、2007年度も発生を確認しているが、茨城県側で発生を確認することはできなかった。

ハヤシミドリシジミ *Favonius ultramarinus* (Fixsen)

最近10年近く里美牧場での記録は途絶えていた。過去に生息していたカシワ林では確認できず、これまでとは、少し離れたカシワ林から確認することができた。牧場周辺部のカシワ林を再確認していく必要性を感じた。

〔採集記録〕

- 1♂ 1, VII, 2007 常陸太田市里美牧場

ウラジロミドリシジミ

Favonius saphirinus (Staudinger)

〔採集記録〕

- 1♂ 30, VI, 2007 久慈郡大子町生瀬富士
 1♂ 1, VII, 2007 常陸太田市里美牧場
 2♂ 16, VII, 2007 常陸太田市里美牧場

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice orsedice* (Butler)

〔採集記録〕

- 1♂ 1, VIII, 2007 常陸太田市里美牧場
 1♂ 1, VIII, 2007 常陸太田市岡見

ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri* (Fenton)

〔採集記録〕

- 1♀ 4, VIII, 2007 久慈郡大子町八溝山

オナガシジミ *Araragi enthea enthea* (Janson)

[採集記録]

1♂ 12, VIII, 2007 常陸太田市里川宿

スギタニルリシジミ

Celastrina sugitanii sugitanii (Matsumura)

[採集記録]

1♂ 28, IV, 2007 常陸太田市里川宿

1♂ 29, IV, 2007 久慈郡大子町花瓶山

スジボソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia nipponica Bollow

過去8年間里美では、確認できなかった。クロウメモドキの多く残る岡見湿地から離れた林道脇の草地で確認できた。

[採集記録]

1♂1♀ 28, VII, 2007 常陸太田市里美三鈷室山

ヒメシジミ *Plebejus argus micrargus* (Linnaeus)

過去には里美牧場周辺に広く見られたが、近年は岡見の限られた地域でのみ確認されている。今年度も1個体の確認だけであった。北茨城市、高萩市においては、まだ産地が点在しているようである。

[採集記録]

1♂ 8, VII, 2007 常陸太田市岡見

スジグロチャバネセセリ *Thymelicus leoninus*

leoninus (Butler)

[採集記録]

1♂ 7, VII, 2007 常陸太田市岡見

1♂ 28, VII, 2007 常陸太田市里美三鈷室山

1♂1♀ 1, VIII, 2007 北茨城市小川

引用文献

荒川 正. 2007. ツマグロキチョウを採集. おけら, (63): 89.

有賀俊司. 2007. 福島県相馬市などのムラサキツバメについて. るりぼし, (34): 42.

平林英男. 2007. 水戸市(旧内原町)でナガサキア

ゲハを採集. るりぼし, (34): 39.

井上大成. 2007a. ツマグロキチョウ,茨城県北部で多発?. るりぼし, (34): 19-21.

清水有久夫. 2007. 鹿嶋市でナガサキアゲハを観察,撮影. おけら, (63): 94.

塩田正寛. 2007a. 日立市風神山でのツマグロヒョウモンの観察. おけら, (63): 76-78.

2007年のチョウ類の文献

2007年に印刷された前述以外のチョウ類に関する文献は、以下の通りである。

青木好明. 2007. 2005年筑西市と結城市におけるツマグロキチョウの記録.おとしぶみ, (25): 35-36.

久松正樹・井上大成. 2007. 茨城県南西部におけるツマグロヒョウモン(チョウ目:タテハチョウ科)のいくつかの記録. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 13-15.

飯島義克. 2007. 筑波山のヤマキマダラヒカゲ. おけら, (63): 87.

井上大成. 2007b. 草地・森林の変遷とチョウ類の保全. 日本草地学会誌, (53): 40-46.

井上大成. 2007c. ナガサキアゲハの茨城県でのいくつかの採集記録と初期の記録のまとめ. おとしぶみ, (25):1-2.

井上大成. 2007d. 茨城県における2003年~2005年のクロコノマチョウの記録. おとしぶみ, (25): 34.

井上大成. 2007e. 花瓶山におけるスギタニルリシジミの新産地. るりぼし, (34): 21-22.

井上大成. 2007f. 茨城県におけるヒメキマダラヒカゲの産地の追加. るりぼし, (34): 23.

井上大成. 2007g. ミヤマカラスシジミを生瀬富士で採集.るりぼし, (34): 39.

井上大成. 2007h. 茨城県北部の山地におけるギンイチモンジセセリ夏型の記録. るりぼし, (34): 39.

井上大成. 2007i. 旧美和村にウラクロシジミ多産. るりぼし, (34): 40.

井上大成. 2007j. 茨城県からのヒョウモンチョウの記録削除. るりぼし, (34): 47.

- 井上大成. 2007k. 21世紀最初の5年間に茨城県 内で確認したチョウ類成虫の記録. るりぼし, (35): 2-109.
- 井上大成. 2007l. 採草放棄後の年数経過に伴うチョウ類群集の変化. 日本応用動物昆虫学会(編). 51回応動昆講演要旨. pp. 314. 日本応用動物昆虫学会.
- 井上大成・濱口京子・久松正樹. 2007. 茨城県においてムモンアカシジミ幼虫に随伴していたアリの1種. 茨城県自然博物館研究報告, (10): 17-18.
- 井上大成・久松正樹・水戸昆虫研究会・つくば昆虫談話会. 2007. ホソオチョウは採集によって減るか?. 日本昆虫学会第67回大会事務局(編). 日本昆虫学会第67回大会講演要旨. pp. 70, 日本昆虫学会第67回大会事務局.
- 野崎 武. 2007. 2006年私の蝶観察記録.おけら, (63): 91-93.
- 大阿久義徳. 2007. やっぱり,ダイセンが好き!. おけら, (63): 88-89.
- 佐々木泰弘. 2007. 常陸太田市のスジボソヤマキチョウの記録. るりぼし, (34): 42.
- 塩田正寛. 2007b. 久慈川低山地のチョウ群集. おけら, (63): 1-42.
- 塩田正寛. 2007c. 筑西市でツマグロヒョウモンを確認. おけら, (63): 90.
- 塩田正寛. 2007d. 桜川市でツマグロキチョウを記録.おけら,(63):90.
- 塩田正寛. 2007e. 05年師走寒波による茨城県のアサギマダラ越冬幼虫への影響. るりぼし, (34): 26-28.
- 塩田正寛. 2007f. 茨城県におけるアサギマダラ幼虫の越冬地点の追加. るりぼし, (34): 29-32.
- 塩田正寛. 2007g. 昭和初期のイシガケチョウの採集地を特定する. やどりが, (212): 39-45.
- 塩田正寛. 2007h. 暖冬現象による茨城県へのチョウの進入. 茨城生物,(27): 77-84.
- 塩田正寛. 2007i. 茨城県北西地域のチョウ類. ミュージアムパーク茨城県自然博物館(編). 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書—八溝山地・久慈川を中心とする県北西地域の自然—(2003-2005). pp. 311-321, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 鈴木成美. 2007. 筑波実験植物園におけるミヤマカラスアゲハの記録.茨城県自然博物館研究報告, (10):19-20.
- 高橋晴彦. 2007. 浜見台霊園から消えた?4年目のツマグロヒョウモン.るりぼし,(34): 24-25.
- 高橋 潔. 2007a. 北茨城市におけるキバネセセリの古い採集記録.るりぼし,(34): 40.
- 高橋 潔. 2007b. 八溝山におけるキバネセセリの古い目撃記録.るりぼし,(34): 41.
- 高橋 潔. 2007c. 八溝山におけるキベリタテハの古い目撃記録.るりぼし,(34): 41.
- 高橋 潔. 2007d. モンシロチョウを2月中旬に目撃. るりぼし,(34): 41.
- 東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.
- 徳田勝一. 2007a. 蝶に魅せられて⑩ツマグロヒョウモンとナガサキアゲハ. 利根タブノキ通信, (31): 11.
- 徳田勝一. 2007b. 蝶に魅せられて⑪ツマグロヒョウモンの“里親”. 利根タブノキ通信, (32): 11.
- 横山久義. 2007. 今年は庭で蝶の飛ぶ姿をジックリと.おけら,(63): 88.

チョウ目 (ガ類)

金井 節博・林 恵治

2007年のチョウ目ガ類の動向

1. 南方系の北進傾向

従来、房総半島以西に分布するとされてきたビロードハマキ *Cerace xanthocosma* Diakonoff がつくば市吾妻にて記録された (星, 2007). また, 筆者のひとり林は, 2000年7月6日に筑波山の女体山頂上付近にて確認した. 小松友枝 (私信) は, かすみがうら市雪入の雪入ふれあいの里公園でも本種を確認している. 目立つ色彩で昼飛性のガであり, 2008年以降も, 本種の北進状況を継続調査したい.

2. 成虫終認日

例年, 11月上旬で成虫の発生が終わるカブラヤガ *Agrotis segetum* (Denis et Schiffermuller) の取手市での終認は12月15日であった. この日は同所でツマグロヒョウモン, ヤマトシジミ, ウラナシジミも同時に観察され, 成虫発生時期が例年以上に遅かった.

個体数も多く, 春から秋まで発生を繰り返すカブラヤガとマエアカスカシノメイガ *Palpita nigropunctalis* (Bremer) の初認・終認の記録を2008年以降継続して把握していきたい.

3. 追加記録

茨城県では, ガを継続的に採集する者が少なく, 県全体の傾向をまとめるのは困難だが, 2007年は佐藤和明が土浦市で, 林 恵治が取手市を中心につくば市, 龍ヶ崎市, 高萩市などで採集を実施した. 詳細は別報に譲るが, これらの調査で, 安井 (1993) にない種が4種あったので報告する. また, 茨城県新規記録ではないが, 従来報告の少ない種の採集記録を報告する.

なお, リストは採集日, 採集地, 採集者の順に記した. 採集者の金井は金井節博が, 佐藤は佐藤和明が, 林は林 恵治が採集したものである.

今回の報告をまとめるにあたり, 佐藤 和明氏からは, 土浦市穴塚大池での採集記録を提供いただいた. 感謝申し上げる.

[茨城県初記録種]

シャクガ科 Geometridae

ヨツモンマエジロアオシャク

Comibaena procumbaria (pryer)

2007年10月13日, 取手市本郷, 林

シロフユエダシャク

Agriopsis leucophaearia (Denis et Schiffermuller)

2007年2月10日, 土浦市穴塚大池, 佐藤

ヤガ科 Noctuidae

ヒトスジアツバ *Hypena tatorhina* Butler

2007年9月28日, 高萩市上君田, 金井

ウスヅマアツバ *Bomolocha perspicua* (Leech)

2007年10月21日, 取手市本郷, 林

[注目種]

ハマキガ科 Tortricidae

プライヤハマキ *Acleris affinitana* (Snellen)

2007年2月10日, 土浦市穴塚大池, 佐藤

ミノガ科 Psychidae

チャミノガ *Eumeta minuscule* Butler

2007年5月5日, 取手市白山, 林

オオミノガ *Eumeta japonica* (Heylaerts)

2007年6月9日, 取手市本郷, 林

ハマキモドキガ科 Choreutidae

コウゾハマキモドキ *Choreutis ophiosema* (Lower)

2007年4月1日, 土浦市穴塚大池, 佐藤

マダラガ科 Zygaenidae

ウメスカシクロバ *Illiberis rotundata* Jordan

- 2007年5月26日, 取手市井野台, 林
- イラガ科 Limacodidae
クロシタアオイラガ *Latonia sinica* (Moore)
2007年8月4日, 取手市本郷, 林
- メイガ科 Pyralidae
ツマグロシロノメイガ *Polythlipta liquidalis* Leech
2007年5月13日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
マメノメイガ *Maruca testulalis* (Hubner)
2007年9月22日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
キアヤヒメノメイガ *Diasemia accalis* (Walker)
2007年10月16日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ヒメトガリノメイガ
Anania verbascalis (Denis et Schiffermuller)
2007年5月27日, 水戸市田野町, 林
- カギバガ科 Drepanidae
アシベニカギバ *Oreta pulchripes* Butler
2007年9月22日, 龍ヶ崎市長山, 林
- シャクガ科 Geometridae
クロテンフユシャク *Inurois punctigera* (Prout)
2007年2月11日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ウスモンフユシャク *Inurois fumosa* (Inoue)
2007年1月13日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ナミスジフユナミシャク
Operophtera brumata (Linnaeus)
2007年1月13日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ソトシロオビナミシャク
Chloroclystis excise (Butler)
2007年5月5日, 取手市本郷, 林
バラシロエダシャク
Lomographa temerata (Denis et Schiffermuller)
2007年3月17日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ハミスジエダシャク
Hypomecis roboraria (Denis et Schiffermuller)
2007年5月26日, 取手市井野台, 林
ヒゲマダラエダシャク
Cryptochorina amphidasyaris (Oberthur)
2007年3月28日, つくば市筑波山, 林
ウラモンアカエダシャク *Parepione grata* (Butler)
- 2007年4月21日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
- イカリモンガ科 Callidulidae
イカリモンガ *Pterodecta felderi* (Bremer)
2007年10月14日, 高萩市上君田, 林
- ヤママユガ科 Saturniidae
エゾヨツメ *Agria tau* (Linnaeus)
2007年4月7日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
- スズメガ科スズメガ科
エビガラスズメ *Agrius convolvuli* (Linnaeus)
2007年9月28日, 高萩市上君田, 金井
- ヒトリガ科 Arctiidae
ヤネホソバ *Eilema fuscodorsalis* (Matsumura)
2007年4月8日, 取手市白山, 林
ゴマダラキコケガ
Stigmatophora flava (Bremer et Grey)
2007年5月20日, 取手市井野台, 林
- ヤガ科 Noctuidae
タマナヤガ *Agrotis ipsilon* (Hufnagel)
2007年7月28日, つくば市竹園, 佐藤
マエジロヤガ *Ochropleura plecta* (Linnaeus)
2007年4月21日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
オオバコヤガ *Darsia canescens* (Butler)
2007年9月28日, 高萩市上君田, 金井
ウスチャヤガ *Xestia dilatata* (Butler)
2007年11月2日, つくば市竹園, 佐藤
カギモンヤガ *Cerastis pallescens* (Butler)
2007年4月21日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
マツキリガ
Panolis flammea (Denis et Schiffermuller)
2007年4月21日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ブナキリガ *Orthosia paromoea* (Hampson)
2007年3月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
ホソバキリガ *Orthosia angustipennis* (Matsumura)
2007年3月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤
スモモキリガ
Orthosia munda (Denis et Schiffermuller)
2007年3月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

キバラモクメキリガ *Xylena Formosa* (Butler)

2007年3月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

ミヤマオビキリガ *Conistra grisescens* Draudt

2007年3月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

ホシオビキリガ *Conistra unimacula* Sugi

2007年2月11日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* (Fabricius)

2007年9月30日, つくば市竹園, 佐藤

アカスジアオリング

Pseudoips sylpha (Butler)

2007年4月21日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

オオウンモンクチバ *Mocis undata* (Fabricius)

2007年5月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

ウンモンクチバ *Mocis annetta* (Butler)

2007年5月3日, 土浦市宍塚大池, 佐藤

トラガ科 Agaristidae

トビイロトラガ *Sarbanissa subflava* (Moore)

2007年9月28日, 高萩市上君田, 金井

引用文献

星 光流. 2007. 茨城県つくば市でビロードハマキの越冬幼虫を採集. 月刊むし, (442), 26.

松井安俊. 1993. チョウ目ガ類. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 238-298, 水戸市立博物館.

2007年のガ類の文献

2007年に印刷された前述以外のガ類に関する文献は, 以下の通りである.

東海村の自然調査会. 2007. 東海村の自然誌. 350pp., 東海村教育委員会.

カニムシ類

坂寄 廣

2007 年までのカニムシ類の動向

1. 分類・同定に関する問題点

茨城県自然博物館の第 1 次から第 4 次総合調査により、県内各地より土壌性カニムシ類の標本が得られた (坂寄, 1998, 2001, 2004, 2007)。その後、新たな分類の知見が得られたため、茨城県内で記録された種を精査した結果、*Allochthonius* 属、*Mundochthonius* 属で、これまで考えられていた種とは異なった種と考えるべきではないかという知見が得られた。例えば、*Allochthonius* 属については、これまで日本産のものは森川氏によって *A. opticus* とまとめられてきた (Morikawa, 1960) が、標本を精査したところ、*A. shintoisticus* とすべきものと、未記載種であるとの結論に達して、筑波山の山頂付近より採集された標本は *A. tamurai* として記載し (Sakayori, 1999)、加えて筑波山山頂付近で得られた別の標本は栃木県で得られた標本をもとに記載された *A. montanus* であることも判明した (Sakayori, 2000)。

日本の森林土壌中より得られる *Mundochthonius* 属は、これまで森川氏によって、*M. japonicus japonicus* と *M. japonicus scolytidis* の 2 亜種にまとめられていた (Morikawa, 1960)。それらに加えて筆者は、長崎県産の標本をもとに *M. kiyoshii* を記載した。しかし、茨城県内より得られた標本を精査した結果、少なくとも以上の 2 種 2 亜種とは異なる種類である可能性が高く、新種として記載報告すべきであると考えている。

2. 県南西域に生息する土壌性カニムシ類の生息域の違いとその要因に関する一考察

筑波山麓に生息している種類と、県西地区の低地林に生息している種類を比較すると、違いが認められる。この理由として、下末吉海進で古東京湾に水没したか、しなかったか、さらに縄文海進で海面下に没したかという観点から説明のできる

種類があるのではないかと推察される。特に、*Tyrannochthonius japonicus* は県南西の低地林に広く分布している (坂寄, 1990) ことから、海が退いて陸化したところに分布を広げてゆき、その一部が筑波山や、難台山の中腹まで分布を広げたのではないかと推測している。一方、*Mundochthonius* 属の一種(種名は未確定) は筑波山麓の標高 100m 前後の森林土壌中からも採集されるが、県西の低地林からは採集されていない。海進前に生息していたものが、水没した場所では個体群が消滅し、水没しなかった場所に個体群が生き残った結果ではないかと推測している。

以上の推測がどれくらい有効であるかを確かめるために、これまでの第 1 次から第 4 次総合調査で採集された標本に加えて、過去に採集してある標本を含めて検討している。

引用文献

- Morikawa, K., 1960. Systematic studies of Japanese Pseudoscorpions. Mem. *Ehime Univ.*, II-B, 4: 85-72.
- 坂寄 廣. 1990. 関東平野北部低地林における土壌性カニムシの生態分布について. *Edaphologia*, 43: 31-40.
- 坂寄 廣. 1998. カニムシ類. ミュージアムパーク茨城県自然博物館 (編). 茨城県自然博物館第 1 次総合調査報告書. pp. 299-301, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 坂寄 廣. 2001. 土壌性カニムシ類. ミュージアムパーク茨城県自然博物館 (編). 茨城県自然博物館第 2 次総合調査報告書. pp. 329-331, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 坂寄 廣. 2004. 土壌性カニムシ類. ミュージアムパーク茨城県自然博物館 (編). 茨城県自然博物館第 3 次総合調査報告書. pp. 363-365, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 坂寄 廣. 2007. 土壌性カニムシ類. ミュージアム

パーク茨城県自然博物館（編）. 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書. pp. 327-331, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.

Sakayori, H. 1999. A new species of the genus *Allochthonius* (Pseudoscorpion, Chthoniidae) from Mt. Tsukuba, central Japan. *Edaphologia*, 63: 81-85.

Sakayori, H., 2000. A new species of the genus *Allochthonius* (Pseudoscorpion, Chthoniidae) from Mt. Kohshin, Tochigi Prefecture, central Japan. *Edaphologia*, 65: 13-17.

取手市などで採集したガ類の記録

林 恵治

筆者は 1994 年から取手市を中心にガ類の採集を行っている。以下に、1994 年から 2007 年までに取手市、北茨城市、高萩市、水戸市、笠間市、つくば市、龍ヶ崎市で採集したガ類 32 科 303 種の採集リストを記す。なお、松井 (1993) に掲載されていない 59 種は、茨城県初記録と考えられるので、種名に “*” を記した。

採集リスト

ボクトウガ科

1. ゴマフボクトウ *Zeuzera multistrigata* Moore
1♀, 1994.8.12, 取手市本郷

ハマキガ科

1. ビロードハマキ *Cerace xanthocosma* Diakonoff*
1♀, 2000.7.6, つくば市筑波山
2. オオアトキハマキ *Archips ingentanus* (Christoph)
1ex., 1999.6.12, 取手市本郷
3. チャハマキ *Homona magnanima* Diakonoff
1ex., 1994.5.5, 取手市本郷
4. チャノコカクモンハマキ *Adoxophyes* sp.
1ex., 1994.6.1, 取手市本郷
5. チャモンサザナミキヒメハマキ *Neonathamna negligens* Kawabe*
1ex., 2003.6.21, 取手市本郷
6. マツトビヒメハマキ *Gravata margarotana* (Heinemann)
1ex., 1996.5.4, 龍ヶ崎市長山
7. ヨモギネムシガ *Epiblema foenella* (Linnaeus)
1ex., 1996.9.8, 取手市本郷
8. クロネハイイロヒメハマキ *Rhopobota naevana* (Hubner)
1ex., 1998.11.129, 取手市井野台

ホソハマキガ科

1. ヨモギオオホソハマキ *Phtheochroides clandestina* Razowski*
1ex., 2004.8.22, 取手市本郷

ミノガ科

1. オオミノガ *Eumeta japonica* (Heylaerts)
2007.6.9, 取手市本郷幼虫写真撮影
2. チャミノガ *Eumeta minuscula* Butler
2007.5.5, 取手市白山幼虫写真撮影

ヒロズコガ科

1. マダラマルハヒロズコガ *Hypophrictitis conspersa* (Matsumura)*
1ex., 2000.7.15, 取手市本郷
2. クロエリメンコガ *Opagona nipponica* Stringer*
1ex., 1999.6.5, 取手市井野台

スガ科

1. ヒロバコナガ *Caenaca sera* (Meyrick)*
1ex., 1998.11.21, 取手市井野台
2. マサキスガ *Yponomeuta meguronis* Matsumura
1ex., 1995.7.12, 取手市本郷

スカシバガ科

1. モモプトスカシバ *Melittia japona* Hampson*
1♂, 1994.6.11, 取手市長兵衛新田

ハマキモドキガ科

1. コウゾハマキモドキ *Choreutis hyligenes* (Butler)
1ex., 1994.6.12, 取手市本郷
2. ゴボウハマキモドキ *Tebenna isshikii* (Matsumura)
1ex., 1997.5.1, 取手市井野台

マルハキバガ科

1. コクマルハキバガ *Martyringa xeraula* (Meyrick)
1ex., 1995.7.2, 取手市井野台

キバガ科

1. イモキバガ *Brachmia triannulella* (Herrich-Schaffer)
1ex., 1996.4.7, 取手市井野台
2. ナラクロオビキバガ *Telphusa necromantis* Meyrick*
1ex., 1995.5.12, 取手市本郷

マダラガ科

1. ミノウスバ *Pryeria sinica* Moore
1♀, 1997.10.29, 取手市井野台
2. ホタルガ *Pidorus glaucopsis* (Drury)
1♂, 1994.7.3, 取手市本郷
3. シロシタホタルガ *Chalcosia remota* (Walker)
1♀, 1994.6.11, 取手市小文間
4. タケノホソクロバ *Balataea funeralis* (Butler)
1♂, 1999.5.30, 取手市井野台
5. ウメスカシクロバ *Illiberis rotundata* Jordan
1♂, 2007.5.26, 取手市井野台

イラガ科

1. イラガ *Monema flavescens* Walker
2006.10.15, 取手市井野台幼虫写真撮影
2. アカイラガ *Phrixolepia sericea* Butler
1♂, 2000.7.29, 取手市本郷
3. クロシタアオイラガ *Latoia sinica* (Moore)
2007.8.4, 取手市本郷幼虫写真撮影
4. ヒロヘリアオイラガ *Latoia lepida* (Cramer)*
1♂, 1999.8.21, 取手市本郷
5. アオイラガ *Latoia consocia* (Walker)
2006.10.15, 取手市本郷幼虫写真撮影

マドガ科

1. マドガ *Thyris usitata* Butler
1♂, 1995.5.31, 取手市稲
2. アカジマドガ *Striglina cancellata* (Christoph)
1♂, 1994.8.7, 取手市井野台
3. アミメマドガ *Striglina suzukii* Matsumura*
1♂, 2001.8.25, 取手市井野台
4. マダラマドガ *Rhodoneura vittula* Guenee
1ex. 1994.8.12, 取手市井野台

メイガ科

1. ホソジツトガ *Pseudaygyria interruptella* (Walker)
1ex., 1999.8.7, 取手市井野台
2. ニカメイガ *Chilo suppressalis* (Walker)
1ex., 2001.8.15, 取手市井野台
3. シロスジツトガ *Crambus argyrophorus* Butler
1ex., 1994.5.5, 取手市本郷
4. ツトガ *Ancylolomia japonica* (Zeller)
1♂, 1996.7.24, 取手市井野台

5. クロオビノメイガ *Pycnarmon pantherata* (Butler)
1ex., 1994.8.6, 取手市本郷
6. シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* (Fabricius)
1♂, 1999.9.25, 取手市本郷
7. アヤナミノメイガ *Eurrhynchos accessalis* (Walker)
1ex., 2000.6.10, 取手市本郷
8. モモノゴマダラノメイガ *Conogethes punctiferalis* (Guenee)
1ex., 2001.9.16, 取手市本郷
9. カクモンノメイガ *Rehimena surusalis* (Walker)*
1ex., 1994.8.7, 取手市井野台
10. ウスイロキンノメイガ *Pleuroptya punctimarginalis* (Hampson),.
1ex., 1995.8.4, 取手市井野台
11. ヨツメノメイガ *Pleuroptya quadrimaculalis* (Kollar)*
1ex., 1994.6.15, 取手市井野台
12. ホソミスジノメイガ *Pleuroptya chlorophanta* (Butler)
1ex., 2002.9.14, 取手市本郷
13. マエアカスカシノメイガ *Palpita nigropunctalis* (Bremer)
1ex., 1994.4.17, 取手市本郷
14. ヒメシロノメイガ *Palpita inusitata* (Butler)
1ex., 1994.7.31, 取手市小文間
15. ワタヘリクロノメイガ *Diaphania indica* (Saunders)
1ex., 2001.10.5, 取手市井野台
16. ツゲノメイガ *Glyphodes perspectalis* (Walker)
1ex., 1999.9.25, 取手市本郷
17. ヨツボシノメイガ *Glyphodes quadrimaculalis* (Bremer et Grey)
1♂, 1995.8.13, 取手市稲
18. キベリハネボソノメイガ *Circobotys aurealis* (Leech)
1♂1♀, 1996.6.2, 取手市本郷
19. マメノメイガ *Maruca testulalis* (Hubner)
1♀, 1996.11.17, 取手市本郷
20. ワモンノメイガ *Nomophila noctuella* (Denis&Schifferrmuller)
1ex., 1996.8.31, 取手市本郷
21. モンキクロノメイガ *Herpetogramma luctuosalis* (Guenee)
1ex., 1994.6.20, 取手市本郷
22. キアヤヒメノメイガ *Diasemia accalis* (Walker)
1ex., 1995.6.11, 取手市小文間
23. ホシオビホソノメイガ *Nomis albopedalis* Motschulsky
1ex., 1994.5.26, 取手市井野台

取手市などで採集したガ類の記録

24. スジマガリノメイガ *Mutuurasia terrealis* (Treitschke)*
1ex., 1996.5.25, 取手市本郷
25. マエベニノメイガ *Paliga minnehaha* (Pryer)
1ex., 1997.5.11, 取手市井野台
26. ユウグモノメイガ *Ostrinia palustralis* (Hubner)
1ex., 1996.5.6, 取手市小文間
27. フキノメイガ *Ostrinia scapularis* (Walker)
1ex., 1995.7.16, 取手市本郷
28. クロモンキノメイガ *Udea testacea* (Butler)
1ex., 1994.12.7, 取手市井野台
29. トガリキノメイガ *Demobotys pervulgalis* (Hampson)
1ex., 1997.5.25, 取手市井野台
30. トモンノメイガ *Pyrausta limbata* (Butler)
1ex., 1994.5.21, 取手市稲
31. ヒメトガリノメイガ *Anania verbascalis* (Denis et Schiffermuller)
1ex., 2007.5.27, 水戸市田野町
32. コメシマメイガ *Aglossa dimidata* (Haworth)
1ex., 1994.7.24, 取手市井野台
33. トビイロシマメイガ *Hypsopygia regina* (Butler)
1ex. 1994.6.25, 取手市本郷
34. カシノシマメイガ *Pyralis farinalis* Linnaeus
1ex., 1994.9.20, 取手市井野台
35. トビイロフタスジシマメイガ *Stemmatophora valida* (Butler)
1ex., 1994.6.25, 取手市本郷
36. フタスジシマメイガ *Orthopygia glaucinalis* (Linnaeus)
1ex., 1999.5.8, 取手市井野台
37. ツマグロシマメイガ *Arippara indicator* Walker
1ex., 2002.7.20, 取手市本郷
38. ウスベニトガリメイガ *Eudotricha olivacealis* (Bremer)
1ex., 1996.7.21, 取手市井野台
39. ノシメマダラメイガ *Plodia interpunctella* (Hubner)*
1ex., 1997.5.8, 取手市井野台
40. フタスジアカマダラメイガ *Boeswarthia oberleella* Roesler*
1ex., 2003.7.20, 取手市井野台
41. オオマエジロホソメイガ *Emmalocera gensanalis* South*
1ex., 1995.7.25, 取手市井野台
- トリバガ科
1. オダマキトリバ *Platyptilia jezoensis* Matsumura
- 1ex., 1996.9.16, 取手市井野台
2. タツナミトリバ *Procapperia pelecycntes* (Meyrick)*
1ex., 1998.7.20, 取手市井野台
3. フジマメトリバ *Sphenarches anisodactylus* (Walker)*
1ex., 1997.5.13, 取手市井野台
- カギバガ科
1. ヤマトカギバ *Nordstromia japonica* (Moore)
1♂, 2001.7.9, つくば市筑波山
2. ウコンカギバ *Tridrepana crocea* (Leech)
1♂, 1995.10.22, 取手市本郷
3. ホシベッコウカギバ *Deroca inconclusa* (Walker)*
1♂, 1995.6.3, 石岡市 (旧八郷町) 難台山
4. スカシカギバ *Macrauzata maxima* Inoue
1♂, 2000.11.3, 取手市本郷
5. アシベニカギバ *Oreta pulchripes* Butler
1♂, 2007.9.2, 龍ヶ崎市長山
- オオカギバガ科
1. オオカギバ *Cyclidia substigmatica* (Hubner)
1♂, 2001.8.5, つくば市筑波山
- トガリバガ科
1. ギンモントガリバ *Parapsestis argenteopicta* (Oberthur)
1♀, 1994.5.21, 取手市本郷
- ジャクガ科
1. ホシジャク *Naxa seriaria* (Motschulsky)
1♂, 2002.7.7, つくば市筑波山
2. オオアヤジャク *Pachyodes superans* (Butler)
1♂, 2002.7.5, 取手市井野台
3. ヒメカギバアオジャク *Mixochlore vittata* (Moore)*
1ex., 2000.9.30, 取手市野々井
4. カギバアオジャク *Tanaorhinus reciprocata* (Walker)
1♂, 1995.6.25, 取手市小文間
5. カギシロスジアオジャク *Geometra dieckmanni* Graeser
1ex., 1995.5.20, 取手市本郷
6. ナミガタウスキアオジャク *Jodis lactearia* (Linnaeus)
1ex., 1998.8.23, 取手市本郷
7. ウスミズアオジャク *Jodis argutaria* (Walker)*
1ex., 1994.4.17, 取手市本郷
8. ヒメツバメアオジャク *Gelasma protrusa* (Butler)
1ex., 1997.9.21, 取手市本郷

9. ヘリグロヒメアオシヤク *Hemithea tritonaria* (Walker)*
1ex., 1997.10.22, 取手市本郷 (Graeser)
1ex., 1994.4.23, 取手市本郷
10. アオスジアオシヤク *Hemithea marima* (Butler)*
1ex., 2003.10.26, 取手市井野台 28. トビスジヒメナミシヤク *Orthonama obstipata*
(Fabricius)
1ex., 1996.6.29, 取手市本郷
11. ナミスジコアオシヤク *Diplodesma ussuriaria*
(Bremer)*
1♀, 1994.8.14, 取手市本郷 29. フタモンクロナミシヤク *Microcalcarifera obscura*
(Butler)
1ex., 1994.6.26, 取手市本郷
12. ヨツモンマエジロアオシヤク *Comibaena procumbaria* (Pryer)*
1♂, 2007.10.13, 取手市本郷 30. ツマキシロナミシヤク *Calleulype whiteyi* (Butler)
1ex., 2001.6.17, つくば市筑波山
13. コヨツメアオシヤク *Comostola subtiliaria* (Bremer)
1♀, 1995.5.7, 取手市井野台 31. ナミガタシロナミシヤク *Callygris compositata*
(Guenee)
1♂, 2001.6.10, 取手市野々井
14. フタナミトビヒメシヤク *Pylargosceles steganioides*
(Butler)
1ex., 2004.4.25, 取手市本郷 32. セスジナミシヤク *Evecliptopera decurrens* (Moore)
1ex., 1996.4.29, 取手市本郷
15. ベニスジヒメシヤク *Timandra griseata* Petersen
1ex., 1994.5.5, 取手市稲 33. オオハガタナミシヤク *Ecliptopera umbrosaria*
(Motschulsky)
2exs., 1994.4.30, 取手市本郷
16. コベニスジヒメシヤク *Timandra comptaria* Walker
1ex., 1994.8.25, 取手市本郷 34. ツマキナカジロナミシヤク *Dysstroma citrata*
(Linnaeus)*
1ex., 2001.5.1, 取手市本郷
17. ウンモンオオシロヒメシヤク *Somatina indicataria*
(Walker)
1ex., 1995.6.24, 取手市小文間 35. マエキナカジロナミシヤク *Dysstroma korbi*
Heydemann*
1ex., 2003.10.11, 取手市井野台
18. ナミスジチビヒメシヤク *Scopula personata* (Prout)
1ex., 1996.9.4, 取手市本郷 36. ナカオビアキナミシヤク *Nothoporia mediolineata*
(Prout)
1ex., 2000.11.19, 石岡市 (旧八郷町) 難台山
19. キナミシロヒメシヤク *Scopula superior* (Butler)
1ex., 2004.10.2, 取手市本郷 37. ウスカバナミシヤク *Eupithecia proterva* Butler*
1ex., 2004.4.17, 取手市本郷
20. ウスキクロテンヒメシヤク *Scopula ignobilis* (Warren)
1ex., 1994.7.11, 取手市本郷 38. マエナミカバナミシヤク *Eupithecia nipponaria*
Leech*
1ex., 2003.2.23, 取手市井野台
21. オオウスモンキヒメシヤク *Idaea imbecilla* Inoue*
1ex., 1995.6.8, 取手市井野台 39. アミモンカバナミシヤク *Eupithecia insigniata*
(Hubner)*
1ex., 2005.4.2, 取手市本郷
22. ウスキヒメシヤク *Idaea biselata* (Hufnagel)*
1ex., 1994.5.3, 取手市本郷 40. ケブカチビナミシヤク *Gymnoscelis esakii* Inoue*
1ex., 2004.9.26, 取手市井野台
23. シロシタコバナナミシヤク *Trichopteryx fastuosa*
Inoue*
1ex., 1996.5.19, 取手市本郷 41. クロフウスアオナミシヤク *Chloroclystis consueta*
(Butler)*
1ex., 2004.4.29, 取手市井野台
24. アトスジグロナミシヤク *Epilobophora obscuraria*
(Leech)*
1ex., 1997.5.12, 取手市井野台 42. ソトシロオビナミシヤク *Chloroclystis excisa* (Butler)
1♂, 2007.5.5, 取手市本郷
25. ウスミドリナミシヤク *Episteira nigrilinearia* (Leech)*
1ex., 1998.9.24, 取手市井野台 43. ヌウマダラエダシヤク *Abraxas miranda* Butler
26. フトジマナミシヤク *Xanthorhoe saturata* (Guenee)
1ex., 1995.11.24, 取手市井野台
27. フタトビスジナミシヤク *Xanthorhoe hortensiaria*

- 1ex., 1995.5.10, 取手市本郷
44. フタホシシロエダシヤク *Lomographa bimaculata* (Fabricius)
1ex., 2000.5.5, 笠間市 (旧岩間町) 長沢
45. バラシロエダシヤク *Lomographa temerata* (Denis et Schiffmuller)
1♂, 2000.7.16, つくば市筑波山
46. ウスアオエダシヤク *Parabapta clarissa* (Butler)
1ex., 1998.5.10, 取手市本郷
47. マエキオエダシヤク *Plesiomorpha flaviceps* (Butler)*
1ex., 1995.6.11, 取手市小文間
48. モンオビオエダシヤク *Plesiomorpha punctilinearia* (Leech)*
1ex., 2003.7.15, 取手市井野台
49. クロハグルマエダシヤク *Synegia esther* Butler
1ex., 1994.5.21, 取手市稲
50. フタテンオエダシヤク *Semiothisa defixaria* (Walker)
1ex., 1997.5.25, 取手市本郷
51. ウスオエダシヤク *Semiothisa hebesata* (Walker)
1ex., 1995.5.20, 取手市下高井
52. ツマジロエダシヤク *Trigonoptila latimarginaria* (Leech)
1ex., 1994.10.2, 取手市下高井
53. トンボエダシヤク *Cystidia stratonice* (Stoll)
1♂, 1994.6.8, 取手市稲
54. ヒロオビトンボエダシヤク *Cystidia truncangulata* Wehrli
1ex., 1997.6.7, 取手市下高井
55. ウメエダシヤク *Cystidia couaggaria* (Guenee)
1♂, 1999.6.20, 取手市井野台
56. ナカウスエダシヤク *Alcis angulifera* (Butler)
1♀, 1999.10.31, 桜川市 (旧真壁町) 足尾山
57. ハミスジエダシヤク *Hypomecis roboraria* (Denis et Schiffmuller)
1ex., 2007.5.26, 取手市井野台
58. ヨモギエダシヤク *Ascotis selenaria* (Denis et Schiffmuller)
1♂, 1994.5.21, 取手市本郷
59. トガリスジグロエダシヤク *Heterarmia dissimilis* (Staudinger)*
1ex., 1997.5.25, 取手市井野台
60. ナミガタエダシヤク *Heterarmia charon* (Butler)
1ex., 1994.5.21, 取手市本郷
61. ウスジロエダシヤク *Ectropis obliqua* (Prout)
1ex., 1996.6.22, 取手市下高井
62. オオトビスジエダシヤク *Ectropis excellens* (Butler)
1ex., 1994.4.29, 取手市本郷
63. ウスグロナミエダシヤク *Phanerothyris sinearia* (Guenee)*
1ex., 1996.5.6, 取手市小文間
64. クロスジフユエダシヤク *Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky)*
1ex., 1999.11.28, 桜川市 (旧大和村) 雨引山
65. チャエダシヤク *Megabiston plumosaria* (Leech)
1ex., 1998.11.23, 取手市本郷
66. トビモンオオエダシヤク *Biston robustus* Butler
1♂, 2005.3.19, 取手市本郷
67. ウスイロオオエダシヤク *Amraica superans* (Butler)
1♂, 2003.5.31, 取手市本郷
68. ニトベエダシヤク *Wilemania nitobei* (Nitobe)
1ex., 1997.11.24, 取手市本郷
69. アトジロエダシヤク *Pachyligia dolosa* Butler
1ex., 1995.3.18, 取手市本郷
70. ハスオビエダシヤク *Descoreba simplex* Butler
1♂, 1996.4.7, 取手市本郷
71. ツマトビキエダシヤク *Bizia aexaria* Walker
1♂, 1994.6.13, 取手市本郷
72. ヒゲマダラエダシヤク *Cryptochorina amphidasyaria* (Oberthur)
1♂, 2007.3.28, つくば市筑波山
73. マエキトビエダシヤク *Nothomiza formosa* (Butler)
1ex., 1994.6.8, 取手市本郷
74. エグリヅマエダシヤク *Odontopera arida* (Butler)
1ex., 1997.10.22, 取手市本郷
75. モンシロツマキリエダシヤク *Zethenia albonotaria* (Bremer)
1ex., 1995.5.10, 取手市本郷
76. ミスジツマキリエダシヤク *Zethenia rufescentaria* Motschulsky
1ex., 1994.5.3, 取手市本郷
77. ウコンエダシヤク *Corymica specularia* (Moore)*
1♂, 2000.5.14, 取手市本郷
78. ウスキツバメエダシヤク *Ouraapteryx nivea* Butler
1♂, 1994.6.12, 取手市本郷
79. コガタツバメエダシヤク *Ouraapteryx obtusicauda* (Warren)

- 1ex., 2000.6.17, 桜川市 (旧真壁町) 加波山
80. シロツバメエダシヤク *Ourapteryx maculicaudaria* (Motschulsky)
1♂, 1996.9.24, 取手市本郷
- ツバメガ科
1. ギンツバメ *Acropteris iphiata* (Guenee)
1ex., 1995.5.20, 取手市稲
- フタオガ科
1. クロホシフタオ *Epiplera moza* (Butler)*
1ex., 2000.6.21, つくば市筑波山
- イカリモンガ科
1. イカリモンガ *Pterodecta felderi* (Bremer)
1ex., 2007.10.14, 高萩市上君田
- カレハガ科
1. カレハガ *Gastropacha orientalis* Sheljuzhko
1♀, 1995.10.1, 取手市井野台
- オビガ科
1. オビガ *Apha aequalis* (Felder)
1ex., 1998.8.1, 取手市本郷
- ヤママユガ科
1. ヤママユ *Antheraea yamamai* (Guerin-Meneville)
1♂, 1999.8.23, 取手市本郷
2. クスサン *Dictyoploca japonica* (Moore)
1♀, 1995.10.15, 取手市小文間
3. ヒメヤママユ *Caligula boisduvalii* (Eversmann)
1♀, 1997.11.15, 取手市本郷
4. オオミズアオ *Actias artemis* (Bremer et Grey)
1♀, 1994.5.14, 取手市井野台
- トラガ科
1. トビイロトラガ *Sarbanissa subflava* (Moore)
1ex. 2000.7.27, 取手市井野台
- スズメガ科
1. エビガラスズメ *Agrius convolvuli* (Linnaeus)
1♀, 1995.10.1, 取手市井野台
2. クロスズメ *Hylcoicus caliginus* Butler
1♀, 2003.8.17, 取手市本郷
3. モンホソバズメ *Oxyambulyx schauffelbergi* (Bremer et Grey)
1ex., 2000.7.29, 取手市本郷
4. トビイロスズメ *Clanis bilineata* (Walker)
1♀, 1999.7.29, 取手市白山
5. モモスズメ *Marumba gaschkewitschii* (Bremer&Grey)
1ex., 1996.7.14, 取手市井野台
6. コウチスズメ *Smerinthus tokyonis* Matsumura*
1ex., 1996.8.11, 龍ヶ崎市長山
7. オオスカシバ *Cephonodes hylas* (Linnaeus)
1♀, 1998.8.26, 取手市井野台
8. ホシヒメホウジャク *Gurelca himachala* (Butler)
1♂, 1994.8.17, 取手市井野台
9. ホシホウジャク *Macrogloa pyrrhosticta* Butler*
1ex., 1994.10.13, 取手市井野台
10. キイロスズメ *Theretra nessus* (Drury)
1ex., 2004.8.13, 取手市井野台
11. コスズメ *Theretra Japonica* (Boisduval)
1♀, 2001.6.12, 取手市井野台
12. セスジスズメ *Theretra oldenlandiae* (Fabricius)
1ex., 2000.7.16, 取手市井野台
- シヤチホコガ科
1. ホソバシヤチホコ *Fentonia ocypte* (Bremer)
1♂1♀, 1994.8.28, 取手市本郷
2. フタジマネグロシヤチホコ *Neodrymonia delia* (Leech)
1ex., 1994.6.1, 取手市本郷
3. モンクロシヤチホコ *Phalera flavescens* (Bremer et Grey)
1ex., 1994.8.6, 取手市本郷
4. セダカシヤチホコ *Rabtala cristata* (Butler)
1♂1♀, 2002.8.4, 取手市井野台
5. キシヤチホコ *Torigea straminea* (Moore)
1ex., 2006.8.16, 取手市本郷
6. ウスキシヤチホコ *Mimopydna pallida* (Butler)
1♂1♀, 1994.5.29, 取手市井野台
7. ツマジロシヤチホコ *Hexafrenum leucodera* (Staudinger)
1♀, 1996.9.15, 取手市本郷
8. プライヤエグリシヤチホコ *Lophontesia pryeri* (Butler)
1ex., 1994.6.13, 取手市本郷
9. オオエグリシヤチホコ *Pterostoma sinicum* Moore
1ex., 1995.6.12, 取手市稲

取手市などで採集したガ類の記録

ドクガ科

1. スギドクガ *Calliteara abietis* (Denis et Schiffermuller)
1♂, 1995.7.22, 取手市井野台
2. リンゴドクガ *Calliteara pudibunda* (Linnaeus)
1♂, 1999.8.17, 北茨城市関本
3. マメドクガ *Cifuna locuples* Walker
1ex., 2000.9.8, 取手市井野台
4. ヒメシロモンドクガ *Orgyia thyellina* Butler
2♂, 1995.8.13, 取手市本郷
5. エルモンドクガ *Arctornis l-nigrum* (Muller)
1♀, 1994.9.8, 取手市本郷
6. マイマイガ *Lymantria dispar* (Linnaeus)
1♀, 1994.7.24, 取手市井野台
7. カシワマイマイ *Lymantria mathura* Moore
1♀, 1994.7.23, 取手市本郷
8. ウチジロマイマイ *Parocneria furva* (Leech)
1♂1♀, 1996.9.22, 取手市本郷
9. ゴマフリドクガ *Euproctis pulverea* (Leech)*
1♂, 1994.7.23, 取手市本郷
10. チャドクガ *Euproctis pseudoconspersa* (Strand)
1♂1♀, 1994.7.9, 取手市本郷

ヒトリガ科

1. ツマキホソバ *Eilema laevis* (Butler)
1♂, 1994.4.17, 取手市本郷
2. ヤネホソバ *Eilema fuscodorsalis* (Matsumura)
1ex., 2007.4.8, 取手市白山
3. シロホソバ *Eilema degenerella* (Walker)
1ex., 1994.6.19, 取手市本郷
4. ゴマダラベニコケガ *Mitochondria pulchra* Bremer et Grey
1ex., 1995.6.25, 取手市本郷
5. ゴマダラキコケガ *Stigmatophora flava* (Bremer et Grey)
1ex., 2007.5.20, 取手市井野台幼虫写真撮影
6. スジモンヒトリ *Spilosoma seriatopunctata* Motschulsky
1♂, 1994.5.21, 取手市本郷
7. クワゴマダラヒトリ *Spilosoma imparilis* (Butler)
1♂, 2001.8.26, 大子町袋田
8. アカハラゴマダラヒトリ *Spilosoma punctaria* (Stoll)
1♀, 1996.5.6, 取手市小文間
9. キハラゴマダラヒトリ *Spilosoma lubricipeda* (Linnaeus)
1♀, 1994.4.30, 取手市本郷

カノコガ科

1. カノコガ *Amata fortunei* (Orza)
1♂, 1994.6.13, 取手市本郷

ヤガ科

1. シロシタケンモン *Hylonycta hercules* (Felder et Rogenhofer)
1ex., 1998.8.8, 取手市本郷
2. ナシケンモン *Viminia rumicis* (Linnaeus)
1ex., 1994.4.20, 取手市本郷
3. イチモジキノコヨトウ *Bryophila granitalis* (Butler)
1ex., 1997.7.27, 取手市本郷
4. ツメクサガ *Heliothis maritima* (Graslin)
1ex., 2003.8.7, 取手市本郷
5. タマナヤガ *Agrotis ipsilon* (Hufnagel)
1ex., 1997.6.29, 取手市本郷
6. オオカブラヤガ *Agrotis tokionis* Butler
1ex., 1996.10.10, 取手市本郷
7. カブラヤガ *Agrotis segetum* (Denis et Schiffermuller)
1ex., 1994.8.21, 取手市本郷
8. オオバコヤガ *Diarsia canescens* (Butler)
1ex., 2000.9.29, 取手市本郷
9. ウスチャヤガ *Xestia dilatata* (Butler)
1ex., 1997.10.25, 取手市本郷
10. カギモンヤガ *Cerastis pallescens* (Butler)
1ex., 1996.4.7, 取手市本郷
11. ヨトウガ *Mamestra brassicae* (Linnaeus)
1ex., 1996.9.20, 取手市井野台
12. シロシタヨトウ *Sarcopolia illoba* (Butler)
1ex., 1996.5.18, 取手市本郷
13. アカバキリガ *Orthosia carnipennis* (Butler)
1ex., 1995.4.15, 取手市本郷
14. マメチャイロキヨトウ *Aletia consanguis* (Guenee)
1ex., 1994.9.28, 取手市井野台
15. スジシロキヨトウ *Leucania striata* Leech
1ex., 2000.7.20, 取手市井野台
16. クサシロキヨトウ *Acantholeucania loreyi* (Duponchel)
1ex., 1999.11.23, 取手市本郷
17. キクセダカモクメ *Cucullia elongata* (Butler)
1ex., 1996.5.11, 取手市本郷
18. キバラモクメキリガ *Xylena formosa* (Butler)
1ex., 1994.4.3, 取手市井野台
19. スギタニモンキリガ *Sugitania lepida* (Butler)

- 1ex., 1995.11.26, 取手市本郷
20. ウスキトガリキリガ *Telorta acuminata* (Butler)*
1ex., 2002.12.5, 取手市井野台
21. ノコメトガリキリガ *Telorta divergens* (Butler)
1ex., 1993.12.6, 取手市井野台
22. テンオビヨトウ *Nonagria turpis* Butler
1ex., 1994.6.11, 取手市井野台
23. イネヨトウ *Sesamia inferens* (Walker)
1ex., 2001.8.26, 取手市本郷
24. シロホシキシタヨトウ *Triphaenopsis lucilla* Butler
1ex., 1994.8.28, 取手市本郷
25. ハガタアオヨトウ *Trachea tokiensis* (Butler)*
1ex., 1994.5.29, 取手市井野台
26. ハスモンヨトウ *Spodoptera litura* (Fabricius)
1ex., 1996.10.5, 取手市井野台
27. スジキリヨトウ *Spodoptera depravata* (Butler)
1ex., 2003.7.20, 取手市本郷
28. オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha* Guenee
1ex., 1994.7.10, 取手市井野台
29. カラスヨトウ *Amphipyra livida* (Denis et Schiffmuller)
1ex., 1994.12.6, 取手市井野台
30. チャオビヨトウ *Nipponyx segregata* (Butler)
1ex., 1994.6.11, 取手市長兵衛新田
31. マエホシヨトウ *Pyrrhivalva sordida* (Butler)
1ex., 1996.9.21, 取手市井野台
32. モンオビヒメヨトウ *Dysmilichia gemella* (Leech)
1ex., 1997.9.23, 取手市本郷
33. キノカワガ *Blenina senex* (Butler)
1ex., 1♂, 1996.8.30, 取手市本郷
34. ネスジキノカワガ *Characoma ruficirra* (Hampson)
1ex., 1997.9.15, 取手市本郷
35. マエシロモンキノカワガ *Nycteola costalis* Sugi*
1ex., 2003.6.7, 取手市本郷
36. アカマエアオリング *Earias pudicana* Staudinger
1ex., 1999.9.5, 取手市井野台
37. ベニモンアオリング *Earias roseifera* Butler
1ex., 1995.4.30, 取手市本郷
38. クロオビリング *Gelastocera exusta* Butler
1♀, 1996.6.2, 取手市下高井
39. アカスジアオリング *Pseudoips sylpha* (Butler)
1ex., 2001.6.16, 取手市小文間
40. シロスジシマコヤガ *Corgatha dictaria* (Walker)
1ex., 1994.6.13, 取手市本郷
41. アヤホソコヤガ *Araeopteron amoena* Inoue
1ex., 1999.5.9, 取手市本郷*
42. ウスシロフコヤガ *Lithacodia stygia* (Butler)
1ex., 2000.5.28, 取手市本郷
43. ヨモギコヤガ *Phyllophila obliterated* Rambur
1ex., 1997.5.16, 取手市井野台
44. フタオビコヤガ *Naranga aenescens* Moore
1ex., 2003.8.31, 取手市本郷
45. サビイロコヤガ *Amyna stellata* Butler*
1ex., 1995.5.9, 取手市井野台
46. タマナギンウワバ *Autographa nigrisigna* (Walker)
1ex., 1998.9.25, 取手市井野台
47. エゾキクキンウワバ *Ctenoplusia albostrata* (Bremer et Grey)
1ex., 1996.9.28, 取手市本郷
48. ミツモンキンウワバ *Acanthoplusia agnata* (Staudinger)
1ex., 1995.8.19, 取手市井野台
49. イチジクキンウワバ *Chrysodeixis eriosoma* (Doubleday)
1ex., 1997.11.12, 取手市井野台
50. シロシタバ *Catocala nivea* Butler
1ex., 2000.7.21, つくば市筑波山
51. キシタバ *Catocara patala* Felder&Rogenhofer
1♀, 1994.9.3, 取手市井野台
52. アシプトクチバ *Parallelia stiposa* (Fabricius)
1ex., 1996.8.15, 取手市井野台
53. ホソオビアシプトクチバ *Parallelia arctotaenia* Guenee
1ex., 2002.7.21, 取手市井野台
54. オオウンモンクチバ *Mocis undata* (Fabricius)
1ex., 1996.9.8, 取手市下高井
55. ユミモンクチバ *Melapia electaria* (Bremer)
1ex., 2000.8.19, 取手市小文間
56. フクラスズメ *Arcte coerulea* (Guenee)
1ex., 2006.10.9, 取手市本郷幼虫写真撮影
57. オスグロトモエ *Spirama retorta* (Clerck)
1♂, 1994.5.22, 取手市井野台
58. ハグルマトモエ *Spirama helicina* (Hubner)
1♀, 1994.8.28, 取手市下高井
59. モクメクチバ *Perinaenia accipiter* (Felder et Rogenhofer)*

取手市などで採集したガ類の記録

- 1ex., 1994.10.3, 取手市井野台
60. オオアカキリガ *Anomis commoda* (Butler)
1ex., 1994.5.8, 取手市井野台
61. アカエグリバ *Oraesia excavata* (Butler)
1♀, 1994.8.1, 取手市本郷
62. アケビコノハ *Adris tyrannus* (Guenee)
1ex., 2000.7.8, 水戸市森林公園
63. アカテンクチバ *Erygia apicalis* Guenee
1ex., 1996.5.5, 取手市本郷
64. ウスヅマクチバ *Dinumma deponens* Walker
1ex., 1999.9.5, つくば市筑波山
65. ムラサキアツバ *Diomea cremata* (Butler)*
1ex., 1994.5.29, 取手市井野台
66. マエテンアツバ *Rhesala imparata* (Walker)
1ex., 1998.8.30, 取手市本郷
67. シロズアツバ *Ectogonia butleri* (Leech)*
1ex., 2003.5.10, 取手市本郷
68. ナカジロアツバ *Harita belinda* (Butler)
1ex., 1996.5.3, 取手市本郷
69. クロキシタアツバ *Hypena amica* (Butler)
2006.9.30, 取手市本郷幼虫写真撮影
70. ナミテンアツバ *Hypena reactivitalis* Moore*
1ex., 1995.4.11, 取手市本郷
71. トビモンアツバ *Hypena indicatalis* Walker
1ex., 1999.9.26, 取手市本郷
72. アオアツバ *Hypena subcyanea* Butler*
1ex., 2000.10.22, 取手市本郷
73. ヤマガタアツバ *Bomolocha stygiana* (Butler)
1ex., 1994.5.22, 取手市小文間
74. ウスヅマアツバ *Bomolocha perspicua* (Leech)*
1ex., 2007.10.21, 取手市本郷
75. ソトウスグロアツバ *Hydrillodes repugnalis* (Walker)
1ex., 1996.5.24, 取手市井野台
76. ニセミスジアツバ *Paracolax bripuncta* Owada*
1ex., 1996.8.24, 取手市本郷
77. オオアカマエアツバ *Simplicia niphona* (Butler)
1ex., 1996.11.2, 取手市井野台
78. ニセアカマエアツバ *Simplicia pseudoniphona* Sugi
1ex., 2003.10.26, 取手市本郷
79. ツマオビアツバ *Zanclognatha griselda* (Butler)
1ex., 1994.8.1, 取手市本郷
80. ヒメコブヒゲアツバ *Zanclognatha tarsipennalis* (Treitschke)
1ex., 1994.8.1, 取手市本郷
81. ツマテンコブヒゲアツバ *Zanclognatha sugii* Owada
1ex., 1995.6.14, 取手市本郷
82. シラナミアツバ *Herminia innocens* Butler
1ex., 1998.5.9, 取手市本郷
83. ウスキミスジアツバ *Herminia arenosa* Butler
1ex., 1996.9.1, 取手市本郷
84. オオシラナミアツバ *Hipoepa fractalis* (Guenee)
1ex., 1996.9.29, 取手市本郷
- トラガ科
1. トビイロトラガ *Sarbanissa subflava* (Moore)
1ex. 2000.7.27, 取手市井野台

引用文献

- 松井安俊. 1993. チョウ目ガ類. 水戸昆虫研究会 (編). 茨城県の昆虫. pp. 238-298, 水戸市立博物館.

淡水海綿類

茅根 重夫・池澤 広美・益田 芳樹

茨城県の淡水海綿に関しては、益子 (1963) と青木 (1975) のまとまった報告があり、5 属 8 種が記録されている。中でも、特にシロカイメンについては、佐々木が涸沼産の標本を詳細に記載している (佐々木, 1973)。その後、渡辺が横利根川で新種の淡水海綿, ヨコトネカイメンを発見し, 報告している (渡辺, 1983)。これらの文献記録に, これまで筆者らによって収集されたデータを加えると, 新たに 4 種が追加され, 7 属 12 種となる。日本では現在までに 11 属 25 種の淡水海綿が記録されているので (益田・佐藤, 2000), その約半数が県内に生息していたことになる。

以下, 種ごとに生息地等のデータを加えて目録とする。データは, 採集日, 採集地, 採集者・同定者の順に示した。なお, 文献は同定者の次に示した。学名は益田 (2006) による。

単骨海綿目 Haplosclerida

タンスイカイメン科 Spongillidae

ヌマカイメン属

1. ヌマカイメン *Spongilla lacustris* (Linnaeus)
1955-1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1955-1961, 北浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1960.7-1961.12, 南中郷, どんげん台, 涸沼 (台の鼻), 羽黒, 菅生沼, 霞ヶ浦(浜), 牛久沼, 益子良恵 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1993.12.27, セツ洞 (水戸市), 2007.1.11 にも確認, 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定) / 1993.10.17, 砂沼 (下妻市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定) / 1999.4.18, ばくだん池 (岩井市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定)

2. シロカイメン *Spongilla alba* Carter
1937.10.5, 涸沼, 佐々木信男 (採集, 同定), (佐々木, 1973) / 1967.8.1, 涸沼, 菊地義昭 (採集), 佐々木信男 (同定) / 1984.3.25, 涸沼 (下石崎), 益田芳樹 (採集, 同定) / 1960.7-1961.12, 涸沼 (網掛), 広浦, 長洲 北松川, 宮前, 親沢, 益子

良枝 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1999.10.12, 涸沼 (広浦漁港), 茅根重夫・池澤広美 (採集), 益田芳樹 (同定) / 2007.8.31, 涸沼 (広浦公園前), 茅根重夫 (採集, 同定)

ヨワカイメン属

3. エンスイカイメン

Eunapius coniferus (Annandale)

2000.9.13, 横利根川 (開門付近), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定) / 2006.10.26, 横利根川 (開門付近), 茅根重夫 (採集, 同定)

4. ヨワカイメン *Eunapius fragilis* (Leidy)

1955-1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1960.7-1961.12, 花房, 芦間, 栗原, 益子良枝 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1984.3.25, 新横利根川 (東村中神), 益田芳樹 (採集, 同定) / 1984.3.25, 横利根川 (西代中島), 益田芳樹 (採集, 同定) / 1993.10.17, 砂沼 (下妻市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定) / 2006.6.8, 北条大池 (つくば市), 茅根重夫 (採集, 同定) / 2006.6.8, ザル池 (つくば市), 茅根重夫 (採集, 同定)

ハウシャカイメン属

5. センダイカイメン

Radiospongilla sendai (Sasaki)

1993.9.25, 松池 (つくば市北条小和田), 茅根重夫・池澤広美 (採集), 益田芳樹 (同定)

6. アナンデルカイメン

Radiospongilla cerebellata (Bowerbank)

1906, 霞ヶ浦, 丘浅次郎 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1955-1961, 涸沼, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1993.10.17, 砂沼 (下妻市), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定) / 2001.9.26, 砂沼, 茅根重夫 (採集, 同定) / 2005.9.27, 霞ヶ浦 (ピオトープ), 茅根重夫・池澤広美 (採集),

益田芳樹 (同定)

益田芳樹 (同定) / 1993.12.11, バクダン池 (岩井市法師戸), 茅根重夫 (採集, 同定)

7. フンカコウカイメン

Radiospongilla crateriformis (Potts)

1955-1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1984.3.5, 横利根川 (西代中島), 益田芳樹 (採集, 同定) / 1994.8.28, 東仁連川 (堀込橋下), 茅根重夫 (採集, 同定)

ジーカイメン属

11. ジーカイメン

Trochospongilla phillottiana Annandale

1984.3.25, 新横利根川 (東村中神), 益田芳樹 (採集, 同定) / 2000.11.29, 横利根川 (閘門附近), 茅根重夫 (採集), 益田芳樹 (同定)

カワカイメン属

8. カワカイメン

Ephydatia fluviatilis (Linnaeus)

1955-1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1960.7-1961.12, 霞ヶ浦 (牛堀, 浜), 澗沼 (網掛, 台の鼻, 広浦, 親沢, 東栄寺干拓内), 菅生沼, 益子良枝 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1993.8.17, 大膳池 (潮来市島須), 茅根重夫・中村 栄 (採集), 益田芳樹 (同定) / 1998.12.4, 小野川 (桜川村羽生), 茅根重夫・池澤広美 (採集), 益田芳樹 (同定)

ヨコトネカイメン属

12. ヨコトネカイメン

Sanidastra yokotonensis Volkmer-Ribeiro et Watanabe

1983, 横利根川 (東町), 渡辺洋子 (採集, 同定), (Volkmer-Ribeiro and Watanabe, 1983)

引用文献

9. ミュラーカイメン

Ephydatia muelleri (Lieberkühn)

1955-1961, 霞ヶ浦, 北浦, 砂沼, 牛久沼, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1960.7-1961.12, 霞ヶ浦 (浜), 花房, 澗沼 (東栄寺干拓内), 羽黒, 砂沼, 菅生沼, 牛久沼, 益子良枝 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1984.3.25, 新横利根川 (東村中神), 益田芳樹 (採集, 同定)

青木行雄. 1975. 茨城の淡水海綿. 茨城県高等学校教育研究会生物部 (編). 茨城の生物第1集. pp. 193-198. 茨城県高等学校教育研究会生物部.

益子良枝. 1963. 茨城県産淡水海綿の研究. 卒業論文抄録集, 茨城大学生物学会会報, (10): 9-11.

益田芳樹. 2006. 日本産淡水海綿の概説および日本産の種について. タクサ 日本動物分類学会誌, (20): 15-22.

佐々木信男. 1973. 本州中部 (関東, 中部, 近畿各地方) 産の淡水海綿. 水大研報, 21(3): 301-317.

Volkmer-Ribeiro, C. and Y. Watanabe. 1983. *Sanidastra yokotonensis*, n. gen. and n. sp. of Freshwater Sponge from Japan. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 9(4): 151-159.

カワムラカイメン属

10. カワムラカイメン

Heteromeyenia stepanowii (Dybowsky)

1955-1961, 霞ヶ浦, 青木行雄 (採集, 同定), (青木, 1975) / 1960.7-1961.12, 霞ヶ浦, ごんげん台, 益子良枝 (採集, 同定), (益子, 1963) / 1993.9.15, 溜池 (大子町上金沢), 中村 栄 (採集),

執筆者一覧

池澤 広美 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
市毛 勝義 (水戸市)
井上 尚武 (茨城県立多賀高等学校)
榎本 友好 (牛久市役所)
大桃 定洋 (土浦市)
勝間 信之 (㈱環境研究センター)
金井 節博 (結城市)
岸本 亨 (つくば国際大学産業情報学科)
坂寄 廣 (茨城県立水海道第二高等学校)
櫻井 浩 (小美玉市)
佐々木泰弘 (茨城県立笠間高等学校)
茅根 重夫 (坂東市)
成田 行弘 (水戸市役所)
林 恵治 (サントリー ㈱)
疋田 直之 (水戸葵陵高等学校)
久松 正樹 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館)
廣瀬 誠 (水戸市)
益田 芳樹 (川崎医科大学生物学教室)
松本 嘉幸 (芝浦工業大学柏中学高等学校)
山根 爽一 (茨城大学教育学部)
渡邊 健 (茨城県農業総合センター農業研究所)

Report of Comprehensive Surveys of Plants, Animals and Geology
in Ibaraki Prefecture by the Ibaraki Nature Museum
- Trends of Insects and Other Invertebrates in 2007 -

Edited by Ibaraki Nature Museum
March 2008

茨城県自然博物館総合調査報告書
2007年 茨城県の昆虫およびその他の無脊椎動物の動向
平成20年3月31日発行

編集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
久松正樹

発行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
館長 菅谷 博
〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700
TEL0297-38-2000

印刷 岩見印刷 ㈱

©2008 Ibaraki Nature Museum
(本書掲載記事および写真の無断転載を禁じます。)

